

官報

號外 昭和十四年三月十一日

ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議トナシ」呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス、就キマシテハ補闕トシテ大西虎之

第三條 保険事業ハ資本又ハ基金ノ總額
十萬圓以上ノ株式會社又ハ相互會社ニ
非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第四條 保険會社ハ其ノ商號又ハ名稱中
ニ其ノ營ム主タル保険事業ノ種類ヲ示
スコトヲ要ス

第五條 保険會社ニ非ザルモノハ其ノ商號又ハ

名稱中ニ保険事業者タルコトヲ示スベ
キ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第六條 保険會社ノ常務ニ從事スル取締
役若ハ監査役又ハ支配人ガ他ノ會社ノ
常務ニ從事セントスルトキハ主務大臣
ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第七條 保険會社ハ生命保險事業ト損害
保險事業ト併セ營ムコトヲ得ズ但シ
生命保險事業ヲ營ム會社ハ生命保險ノ
再保險事業ヲ營ムコトヲ得

第八條 主務大臣ハ何時ニテモ保險會社
ヲシテ其ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシ
メ又ハ當該官吏ヲシテ保險會社ノ營業
所、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務
若ハ財產ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ
物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合
ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セ
シムルコトヲ要ス

第九條 主務大臣保險會社ノ業務又ハ財
產ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキ
ハ業務執行ノ方法ノ變更又ハ財產ノ供
託ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ
爲スコトヲ得

第十條 保險會社ガ第一條第一項ニ掲グ
書類ニ定メタル事項ノ變更ヲ爲スニ
ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

○第七十四回 貴族院議事速記録第二十一號

昭和十四年三月十日(金曜日)午前十時十三
分開議

議事日程 第二十一號

昭和十四年三月十日

午前十時開議

第一 保険業法中改正法律案(政府提出
出、衆議院送付)

第一讀會

第二 青年學校教育費國庫補助法案
(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第三 臺灣事業公債法中改正法律案
(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第四 臺灣米穀移出管理特別會計法案
(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

○議長(伯爵松平頼壽君) 報告ヲ致サセマ
ス

(丸龜書記官朗讀)

昨九日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出
案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院
ニ通知セリ

朝鮮事業公債法中改正法律案

朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案

朝鮮鐵道株式會社所屬金堤慶北安東間鐵
道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

昭和十二年法律第五十七號中改正法律

案大正十四年法律第五十一號中改正法律

主務大臣保険會社ノ業務若ハ財産ノ狀況ニ依リ又ハ事情ノ變更ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前項ノ事項ノ變更ヲ命ズルコトヲ得
主務大臣保険契約者、被保險者又ハ保険金額ヲ受取ルベキ者ノ利益ヲ保護スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ第一項ノ變更認可ノ際現ニ存スル保険契約ニ付テモ亦將來ニ向テ其ノ變更ノ效力ノ及ブモノト爲スコトヲ得
前項ノ處分アリタルトキハ保険會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨及變更ノ要旨ヲ公告スルコトヲ要ス
第十一條 保険會社命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業ニ關シ統制協定ヲ爲シタルトキハ之ヲ主務大臣ニ届出ヅルコトヲ要ス之ヲ變更又ハ廢止シタルトキ亦同じ
主務大臣前項ノ統制協定ガ公益ニ反シ又ハ保険事業ノ健全ナル發達ヲ害スト認ムルトキハ其ノ變更又ハ取消ヲ命ズルコトヲ得
主務大臣保険事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ保険會社ニ對シ第一項ノ統制協定ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ同項ノ統制協定ノ加盟會社若ハ非加盟會社ニ對シ其ノ統制協定ノ全部若ハ一部ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得
第十二條 保険會社ガ法令、主務大臣ノ命令若ハ第一條第二項ニ掲グル書類ニ定メタル特ニ重要ナル事項ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ取締役若ハ監査役ノ解任若ハ事業ノ停止ヲ命ジ又ハ事業ノ免許

第二章 株式會社

第三條 保険事業ヲ營ム株式會社ノ定款ニハ商法第百六十六條第一項ニ掲タル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 保険ノ種類及營業ノ範圍

二 設立費用ノ償却ノ方法

第十四條 株式申込證ニハ前條及商法第百七十五條第二項ニ掲タル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第十五條 會社ハ第十三條及商法第百八十八條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第十六條 會社ハ設立費用及營業費ノ全額ヲ償却シタル後ニ非ザレバ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ

商法第二百九十條第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 會社ガ資本減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ決議ノ要旨及貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十八條 第百十二條第一項第三項、第一百二十條及第一百二十八條第三項ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 會社ガ資本減少又ハ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第百條第一項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スコトヲ得資本減少又ハ合併ニ依ル株式併合ノ場合ニ於テ商法第三百七十七條第一項但書ノ期間ニ付亦同ジ

第十九條 保険事業ヲ營ム株式會社ハ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ相互會社ト爲スコトヲ得

前項ノ相互會社ノ基金ハ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ總額十萬圓ヲ下リ又ハ之ヲ設ケザルコトヲ得
第一項ノ場合ニ於テハ損失ノ填補ニ備フル爲主務大臣ノ必要ト認ムル額ノ準備金ヲ設クルコトヲス
第二十條 組織變更ハ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス
前項ノ決議ハ商法第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得
第二十一條 會社ガ組織變更ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ決議ノ要旨及貸借對照表ヲ公告シ且株主名簿ニ記載アル質權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス
第二十二條 第二項及第三項竝ニ商法第九十九條及第百條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ商法第百條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トス
第二十二條 會社ガ前條第一項ノ公告ヲ爲シタル日以後保險契約ヲ爲サントスルトキハ保險契約者タラントスル者ニ組織變更ノ手續中ノ旨ヲ通知シ其ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス
前項ノ承諾ヲ爲シタル保險契約者ハ組織變更ノ手續ノ關係ニ於テハ之ヲ保險契約者ニ非ザル者ト看做ス
第二十三條 第二十一條第一項ノ公告ニ對シ第二百十二條第一項ノ期間内ニ異議ヲ述べタル保險契約者ノ數及其ノ保險金額ガ同條第三項ニ定ムル割合ヲ超エザルトキハ取締役ハ商法第百條ノ手續ノ終了後遲滯ナク保險契約者總會ヲ招集スルコトヲ要ス

商法第二百二十四條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ於テ會社ノ保険契約者ニ對スル通知ニ之ヲ準用ス
第二十四條　會社ハ組織變更ノ決議ニ於テ保険契約者總會ニ代ルベキ機關ニ關スル定ヲ爲スコトヲ得
前項ノ機關ニハ保険契約者總會ニ關スル規定ヲ準用ス
第一項ノ定ヲ爲シタルトキハ其ノ機關ノ構成ノ要領ヲ第二十一條第一項ノ公告ニ記載スルコトヲ要ス
第二十五條　保険契約者總會ニ於テハ保險契約者ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス
第三十九條第三項及商法第二百三十八條ノ規定ハ保険契約者總會ニ之ヲ準用ス
第二十六條　取締役ハ組織變更ニ關スル事項ヲ保険契約者總會ニ報告スルコトヲ要ス
第二十七條　保険契約者總會ニ於テハ定款ノ變更其ノ他相互會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス
第二十條第一項ノ決議ハ前項ノ決議ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得但シ會社ノ債權者ノ利益ヲ害スルコトヲ得ズ前項ノ變更ガ株主ニ損害ヲ及ボスベキトキハ株主總會ノ同意アルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第二十條第二項ノ規定ヲ準用ス
商法第二百八十七條第二項ノ規定ハ第一項ノ決議ニ之ヲ準用ス
第二十八條　組織變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十九條 株式會社ガ其ノ組織ヲ變更シタルトキハ本店及主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、支店及從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ株式會社ニ付テハ解散ノ登記、相互會社ニ付テハ第四十條第二項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ノ申請書ニハ第二十條第一項ノ決議、第二十一條第一項ノ公告、第二十七條ノ決議及同意、前條ノ認可、第一百十二條第三項ノ異議並ニ商法第八條ノ手續ノ終了ヲ證スル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十條 株式會社ノ保險契約者ハ組織變更ニ因リ其ノ相互會社ニ入社ス

第三十一條 第百十六條^ニ商法第二百八條第一項、第二百九條第一項第二項、第三百七十六條第一項及第三百八十條ノ規定ハ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ商法第三百八十九條第三項中第百三十七條トアルハ之ヲ第百八條トス

第三十二條 生命保險ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルベキ者ハ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ニ付會社ノ總財產ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ノ順位ハ民法第三百六條第一號ニ掲グル先取特權ニ次グ

第三十三條 前條第一項ニ掲グル者ハ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ニ付會社ガ本法ニ依ル主務大臣ノ命令ニ依リ供託シタル財產ノ上ニ他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

一 保険ノ種類及事業ノ範圍	コトヲ要ス
二 名稱	
三 事務所ノ所在地	
四 基金ノ總額	
五 基金ノ醸出者ガ有スベキ權利	
六 基金及設立費用ノ償却ノ方法	
七 剰餘金分配ノ方法	
八 會社ガ公告ヲ爲ス方法	
九 會社ノ成立後ニ讓受クルコトヲ約シタル財産アルトキハ其ノ財産、價格及讓渡人ノ氏名	
十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由	
第十三條 相互會社ハ其ノ名稱中ニ相互通會ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス	
第三十六條 基金ノ拂込ハ金錢以外ノ財產ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ズ	
商法第一百七十一條第二項、第一百七十七條第一項及第一百八十九條ノ規定ハ基金ノ拂込ニ之ヲ準用ス	
第三十七條 相互會社ノ設立ニハ百人以上ノ社員アルコトヲ要ス	
第三十八條 発起人ニ非ザル者ガ社員タラントスルトキハ入社申込證二通ニ保險ノ目的及保険金額ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス但シ會社ノ成立後社員タラントスル者ハ此ノ限ニ在ラズ	
入社申込證ハ發起人之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス	
一 定款ノ認證ノ年月日及其ノ認證ヲ	

ノ各自ガ譲出スル金額
四 発起人ノ氏名及住所
五 発起人方報酬ヲ受クベキトキハ其
ノ報酬ノ額
六 設立ノ際募集セントスル社員ノ數
七 一定ノ時期迄ニ創立總會が終結セ
ザルトキハ入社ノ申込ヲ取消スコト
ヲ得ベキコト
民法第九十三條但書ノ規定ハ會社ノ成
立前ニ於ケル入社ノ申込ニハ之ヲ適用
セズ

第三十九條 基金ノ第一回ノ拂込ガ終了
シ且社員ガ豫定ノ數ニ満チタルトキハ
發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スル
コトヲ要ス

創立總會ニ於テハ社員ノ半數以上出席
シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ一
切ノ決議ヲ爲ス

第五十二條竝ニ商法第二百三十二條第
一項第一項、第二百三十三條、第二百
三十九條第三項第四項、第二百四十條、
第二百四十三條、第二百四十四條及第
二百四十七條乃至第二百五十三條ノ規
定ハ相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス
但シ商法第二百四十七條第一項中第三
百四十三條トアルハ之ヲ保險業法第三
十九條第二項トス

第四十條 相互會社ノ設立ノ登記ハ創立
總會終結ノ日ヨリ一週間内ニ之ヲ爲ス
コトヲ要ス

前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記
スルコトヲ要ス

三 取締役及監査役ノ氏名及住所
四 取締役ニシテ會社ヲ代表セザル者
アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名
五 數人ノ取締役ガ共同シ又ハ取締役
ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベ
キコトヲ定メタルトキハ其ノ規定
第四十一條 社員總會ニ於テ發起人ニ對
シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルト
キ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分
ノ一以上ノ社員ガ訴ノ提起ヲ取締役ニ
請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求
ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ
要ス
第五十七條第二項、第五十八條第一項
乃至第五項、第五十九條及商法第二百
七十七條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場
合ニ之ヲ準用ス
第四十二條 商法第九條、第十一條乃至
第十五條、第十九條乃至第二十一條、
第三十條乃至第四十三條、第四十五條
乃至第四十八條、第五十條、第五十一
條、第五十四條、第五十五條、第五十
七條乃至第六十一條、第六十四條第二
項、第六十五條乃至第六十七條、第一百
六十五條、第一百六十六條第二項、第一百
六十七條、第一百八十一條乃至第一百八十一
七條、第一百九十三條乃至第一百九十六條
及第百九十八條ノ規定ハ相互會社ニ之
ヲ準用ス但シ商法第二百九十六條中第三
百四十三條トアルハ之ヲ保險業法第三
十九條第二項トス

第三章 相互會社

第三十四條 相互會社ノ發起人ハ定款ヲ

前二項ノ規定ニ違反シテ基金利息ノ支拂、基金ノ償却又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第六十五條 基金ヲ償却スルトキハ其ノ償却スル金額ト同一ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

第六十六條 剩餘金ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ各事業年度ノ終ニ於ケル社員ニ之ヲ分配ス

第六十七條 商法第二百八十一條乃至第二百八十五條及第二百九十五條ノ規定ハ相互會社ノ計算ニ之ヲ準用ス

第五節 定款ノ變更

第六十八條 定款ノ變更ヲ爲スニハ社員總會ノ決議アルコトヲ要ス

第六十九條 社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

第三十九條第二項及商法第三百四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六節 社員ノ退社

第六十九條 社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

一 定款ニ定タル事由ノ發生

二 保險關係ノ消滅

商法第一百六十一條ノ規定ハ相互會社ノ社員ガ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十條 退社員ハ定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

退社員ガ會社ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ會社ハ前項ノ金額ノ中ヨリ

之ヲ控除スルコトヲ得

第七十一條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ハ退社アリタル日ノ屬スル事業年度ノ終ヨリ三月内ニ之ヲ爲スコトヲ

要ス

退社員ノ拂戻請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間之ヲ行ハザルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第七節 解散

第七十二條 會社ガ解散ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ認可ノ日ヨリ一週間内ニ決議ノ要旨及貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第一百十二條第二項乃至第四項、第百十六條及第百二十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十三條 商法第五十六條第三項、第九十九條、第百一條但書、第百三十四條、第百三十一條但書、第百三十六條、第百三十一條、第百三十二條、第百三十三條第一項第二項、第四百三十二條第一項、第四百三十三條第一項第二項、第四百三十四條第一項及第四百三十五條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス但シ商法第一百條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トシ第四百四十四條第一項中第百八十八條トアルハ之ヲ保險業法第四十條トス

第七十四條 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外本節ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條 清算人ハ左ノ順序ニ從ヒテ

一 會社財產ヲ處分スルコトヲ要ス

二 一般ノ債務ノ辨済

三 社員ノ保險金額及第百三十四條第

四 第七十九條第一項中第三百四十三條トアルハ之ヲ保險業法第三十九條第二項トシ商法第二百四十五條第六條第三項ノ規定ニ依ル選任ニ之ヲ準用ス

五 第一百一十九條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トシ第四百四十四條第一項中第百八十八條トアルハ之ヲ保險業法第四十條トス

六 第一百一十九條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トシ第四百四十四條第一項中第百八十八條トアルハ之ヲ保險業法第四十條トス

七 第一百一十九條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トシ第四百四十四條第一項中第百八十八條トアルハ之ヲ保險業法第四十條トス

八 第一百一十九條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トシ第四百四十四條第一項中第百八十八條トアルハ之ヲ保險業法第四十條トス

九 第一百一十九條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トシ第四百四十四條第一項中第百八十八條トアルハ之ヲ保險業法第四十條トス

十 第一百一十九條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トシ第四百四十四條第一項中第百八十八條トアルハ之ヲ保險業法第四十條トス

十一 第一百一十九條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トシ第四百四十四條第一項中第百八十八條トアルハ之ヲ保險業法第四十條トス

二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戻スベキ金額ノ支拂

三 基金ノ償却

第七十六條 残餘財產ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ剩餘金ノ分配ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ社員ニ分配スルコトヲ要ス

第七十七條 第五十三條、第五十六條乃至第五十九條及第六十一條並ニ商法第一百六條、第百二十三條乃至第一百二十條、第百二十九條第

百六條、第百三十一條乃至第一百三十四條、第百三十二條、第百三十六條、第百三十八條、第百四十四條第二項、第二百三十八條、第二百四十五條第一項第四號第三項、第二百四十七條、第二百四十九條、第二百五十四條第二項、第二百五十八條、第二百四十五條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トシ第四百四十四條第一項中第百八十八條トアルハ之ヲ保險業法第四十條トス

第七十八條 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外本節ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十九條 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外本節ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第八十條 相互會社ガ登記ヲ爲ス場合ニ關スル規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リテハ營利ヲ目的トセザル社團法人ト

第八十一條 相互會社ニハ營業収益稅ヲ同一ノ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要ス

第八十二條 保険會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其ノ帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後遲滯ナク財產目錄、貸借對照表、

事業報告書及損益計算書並ニ基金ノ償却、基金利息ノ支拂、準備金及利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ヲ主務大臣ニ提出スルコトヲ要ス

第八十三條 保険契約者、被保險者又ハ保険金額ヲ受取ルベキ者ハ會社ノ定期總會終結ノ後其ノ事業時間内何時ニテモ前條ニ掲タル書類ノ閲覽ヲ求メ又ハ

定款若ハ保險約款ニ定メタル費用ヲ支拂ヒテ其ノ證本若ハ抄本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第八十四條 保険會社ノ財產目錄ニ記載スル有價證券中命令ヲ以テ定ムル國債又ハ利拂及償還確實ナリト認メラル

第九節 第二款ノ規定ハ其ノ性質ノ許ザルモノヲ除クノ外相互會社ニ之ヲ準用ス但シ同法第三百八十一條第一項及第四百五十二條第一項中三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主トアルハ之ヲ十分ノ一以上ノ社員トス

第七十九條 非訟事件手續法中株式會社ニ關スル規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リテハ營利ヲ目的トセザル社團法人ト

第八十條 相互會社ガ登記ヲ爲ス場合ニ關スル規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リテハ營利ヲ目的トセザル社團法人ト

第八十一條 相互會社ニハ營業収益稅ヲ同一ノ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要ス

第八十二條 保険會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其ノ帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後遲滯ナク財產目錄、貸借對照表、

事業報告書及損益計算書並ニ基金ノ償却、基金利息ノ支拂、準備金及利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ヲ主務大臣ニ提出スルコトヲ要ス

第八十三條 保険契約者、被保險者又ハ保険金額ヲ受取ルベキ者ハ會社ノ定期總會終結ノ後其ノ事業時間内何時ニテモ前條ニ掲タル書類ノ閲覽ヲ求メ又ハ

定款若ハ保險約款ニ定メタル費用ヲ支拂ヒテ其ノ證本若ハ抄本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第八十四條 保険會社ノ財產目錄ニ記載スル有價證券中命令ヲ以テ定ムル國債又ハ利拂及償還確實ナリト認メラル

債券ニ付テハ商法第三十四條第一項及

第一百八十五條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ

定ムル所ニ依リ均等利廻評價ノ方法ニ

依ル價額ヲ附スルコトヲ得

第八十五條 保險會社ノ設立費用及初ノ

五年度ノ事業費ハ會社成立ノ後十年ヲ

超エザル期間内ニ定款ノ定ムル所ニ從

ヒ毎年其ノ一部ヲ償却スルコトヲ得

商法第二百八十六條ノ規定ハ保險事業

ヲ營ム株式會社ニハ之ヲ適用セズ

第八十六條 保險會社ハ財產ノ評價換又

ハ賣却ニ因リ計上シタル利益ガ之ニ因

リ計上シタル損失ヲ超ユルトキハ其ノ

差額ヲ準備金トシテ積立ツルコトヲ要

ス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ全部

又ハ一部ヲ積立テザルコトヲ得

第八十七條 前條ノ準備金ハ缺損ノ填補

又ハ財產ノ評價換若ハ賣却ニ因リ計上

シタル損失ガ之ニ因リ計上シタル利益

ヲ超ユルトキ其ノ差額ノ填補ニ充ツル

場合ヲ除クノ外主務大臣ノ認可ヲ受ク

ルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第八十八條 保險會社ハ毎決算期ニ保険

契約ノ種類ニ從ヒ責任準備金ヲ計算シ

且之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコ

トヲ要ス

商法第三十三條第四項ノ規定ハ前項ノ

場合ニ之ヲ準用ス

第八十九條 生命保險會社ハ命令ノ定ム

ル所ニ依リ保險計理人ヲ選任シ保險數

理ニ關スル事項ヲ擔當セシムルコトヲ

要ス

主務大臣保險計理人ガ其ノ職務ヲ怠リ

又ハ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナル行爲

ヲ爲シタリト認ムルトキハ其ノ解任ヲ

命ヅルコトヲ得
第九十條 保險計理人ハ會社ガ本法ニ依

リ主務大臣ニ提出スル書類ヲ掲グル事

項中責任準備金其ノ他ノ保險契約ニ關

スル準備金、未收保險料及保險約款ノ

規定ニ依ル貸付金ノ計算ノ正當ナルコ

トヲ確認スルコトヲ要ス

保險計理人前條第一項ノ事項ニ付主務

大臣ノ諮詢ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク

答申ヲ爲スコトヲ要ス

第九十一條 保險會社ノ監査役ハ會社ノ

業務及財產ノ狀況ニ關スル調査ノ結果

ヲ記載シタル監査書ヲ毎事業年度二回

作成シ之ヲ本店又ハ主タル事務所ニ備

置クコトヲ要ス

第五章 會社ノ管理

第九十二條 保險會社ハ契約ヲ以テ他ノ

保險會社ニ其ノ業務及財產ノ管理ヲ委

託スルコトヲ得

前項ノ契約ハ各會社ニ於テ株主總會又

ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條又ハ

本法第三十九條第一項ノ規定ニ依ルニ

非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十三條 前條第一項ノ契約ハ主務大

臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力

ヲ生ゼズ

第九十四條 前條ノ認可アリタルトキハ

各會社ハ遲滯ナク其ノ旨及契約ノ要旨

ヲ公告シ且管理ヲ委託シタル會社ニ在

リテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨並

ニ受託會社ノ商號又ハ名稱及其ノ本店

又ハ主タル事務所ヲ登記スルコトヲ要

ス

前項ノ登記ハ委託會社ノ本店及支店又

ハ各事務所ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコ

トヲ要ス

第九十五條 本法ニ別段ノ定アル場合ヲ

除クノ外委託會社ト受託會社トノ間

ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ

第九十六條 受託會社ガ委託會社ノ爲ニ

保險契約ノ他ノ取引ヲ爲スニハ委託

會社ノ爲ニスルコトヲ表示スルコトヲ

要ス

前項ノ表示ヲ爲サズシテ爲シタル保險

契約其ノ他ノ取引ハ之ヲ自己ノ爲ニ爲

シタルモノト看做ス

商法第三十八條第一項及第三項ノ規定

ハ受託會社ニ之ヲ準用ス

民法第四十四條第一項ノ規定ハ管理ノ

委託アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第九十七條 管理契約ノ解除ハ株主總會

又ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條又ハ

本法第三十九條第一項ノ規定ニ依ルニ

非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十三條 ノ規定ハ第一項ノ解除ニ之

ヲ準用ス

第九十八條 管理契約ノ解除又ハ終了ア

リタルトキハ各會社ハ遲滯ナク其ノ旨

ヲ公告スルコトヲ要ス

第九十九條 主務大臣保險會社ノ業務又

ハ財產ノ狀況ニ依リ會社ヲシテ合併、

業務及財產ノ管理ノ委託又ハ契約ノ移

轉ヲ爲サシムルコトヲ適當ト認ムルト

キハ會社ニ對シ之ヲ勸告スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ主務大臣必要ト認ム

ルトキハ相手會社ヲ指定シ且其ノ會社

ニ對シテモ前項ノ事項ヲ勸告スルコト

ヲ得

第百條 主務大臣保險會社ノ業務又ハ財

産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難

ト認ムルトキ又ハ業務ノ狀況著シク不

良ニシテ公益上其ノ事業ノ繼續ヲ不適

當ト認ムルトキハ事業ノ停止、業務及

財產ノ管理又ハ契約ノ移轉ノ命令ヲ爲

スコトヲ得

第一百一條 前條又ハ第百三十七條第一項

ノ管理ハ主務大臣ノ選任シタル保險管

理人ヲ爲ス

保險會社ハ正當ノ事由ナクシテ保險管

理人タルコトヲ拒否スルコトヲ得ズ

保險管理人ハ管理ヲ受クル會社ニ代リ

保險契約其ノ他ノ取引並ニ財產ノ管理

及處理ヲ爲ス權限ヲ有ス

主務大臣ハ保險管理人又ハ管理ヲ受ク

ル會社ニ對シ管理ニ關シ必要ナル命令

ヲ爲スコトヲ得

主務大臣必要アリト認ムルトキハ保險

管理人ヲ解任スルコトヲ得

第九十六条 第一項第二項及第四項竝ニ

商法第三十八條第一項及破產法第百六

十三條乃至第百六十六條ノ規定ハ保險

管理人ニ之ヲ準用スルシテ破產法中裁判

所トアルハ之ヲ主務大臣トス

第一百二條 主務大臣管理ノ命令ヲ爲シタ

ルトキハ直ニ會社ノ本店又ハ主タル事

務所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ

其ノ旨ヲ通知シ且會社ノ本店及支店又

ハ各事務所ノ所在地ノ登記所ニ其ノ登

記ヲ囑託スルコトヲ要ス

登記所ガ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ

遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百三條 管理ノ命令アリタルトキハ管

理ヲ受クル會社ノ事業ハ之ヲ停止ス但

シ主務大臣必要アリト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ停止セザルモノト爲スコトヲ得

第六章 解散

保険會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

存立時期ノ満了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生

一 株主總會又ハ社員總會ノ決議
一 會社ノ合併

會社合併

六五

解散ヲ命ズル裁判

・タルトキハ主務大臣ハ直ニ會社ノ本
店及支店又ハ各事務所ノ所在地ノ登記

ニ其ノ登記ヲ囁託スルコトヲ要ス

詔所力前項ノ囁請受ケタルトキハ
延滞ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

九條解散、合併及保險契約ノ移轉
關スル決議ハ商法第三百四十三條又

本法第三十九條第一項ノ規定ニ依ル
非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 解散ノ決議、合併及保險契約
移轉ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非

レバ其ノ效力ヲ生ゼズ

二個 保險會社ノ契約ニ以テ責任
準備金算出ノ基礎ヲ同ジクスル保険契

ノ全額ヲ包括シテ他ノ保險會社ニ移
ルコトヲ得

會社ハ前項ノ契約ヲ以テ會社財產ヲ移

大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
テニ必要、忍ムレオキヲ留保ケレ

トヲ要ス

十二條 保険契約ヲ移轉セントスル
會社ハ第百九條ノ決議ノ日ヨリ二週間

官報號外

昭和十四年三月十一日 貴族院議事速記録第二十一號 保険業法改正法律

第一讀會

内ニ移轉契約ノ要旨及各會社ノ貸借業
照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第百十五條 前條ノ規定ニ依リ保険金額ノ削減ヲ定ムル場合ニ於テハ保険契約ヲ移轉セントスル會社ハ株主總會又ハ社員總會ノ決議アリタル時ヨリ保険契

約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ザザルニ至ル時迄其ノ財産ノ處分ヲ爲シ又ハ債務ヲ負擔スベキ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ但シ會社ノ維持ニ必要ナル費用ヲ支出スル場合又ハ財產ノ保全其ノ他特別ノ必要ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ財產ヲ處分スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
保險契約ノ移轉アリタルトキハ保險契約ニ因リテ生ジタル債權ニシテ前項ノ規定ニ依リ支拂ヲ停止セラレタルモノニ付テハ移轉契約ニ定メタル保險金額削減ノ割合ニ依リ其ノ金額ヲ削減シテ支拂ヲ爲スコトヲ要ス
前條ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ變更ヲ爲サントスル會社亦第一項ニ同ジ但シ保險契約ニ因リテ生ジタル債務ヲ辨濟シ又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ變更ニ關セザル行爲ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第百六十六條　會社ガ保險契約ノ移轉ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス移轉ヲ爲サザルニ至リタルトキ亦同ジ
第一百七十七條　保險契約ノ移轉ヲ爲シタル會社ガ其ノ保險契約ニ付有スル權利義務ハ移轉ヲ受ケタル會社之ヲ承繼ス移轉契約ヲ以テ移轉スペキコトヲ定メタル財產ニ付亦同ジ
保險契約移轉ノ決議ノ後ニ於テ移轉スペキ保險契約ニ付爲シタル收支其ノ他債務ハ移轉ヲ受ケタル會社之ヲ承繼ス移轉スペキ保險契約又ハ財產ニ付生ジ

タル變更ハ移轉ヲ受ケタル會社ニ歸ス
第百十八條 保険契約ノ移轉アリタル場合ニ於テ移轉ヲ受ケタル會社ガ相互會社ナルトキハ其ノ保険契約者ハ其ノ會社ニ入社ス

第百十九條 會社ハ解散ノ後ト雖モ三月内ニ限リ保険契約移轉ノ決議ヲ爲スコトヲ得

第百三十四條 ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セズ但シ保険契約ノ移轉ヲ爲サザルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百二十條 保険契約ノ移轉ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總會又ハ社員總會ノ決議錄並ニ第百十二條ノ公告及異議並ニ保険契約移轉ノ認可ヲ證スル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條 保険會社第百條又ハ第百三十七條第一項ノ規定ニ依ル契約ノ移轉ノ命令ヲ受ケタル場合ニ於テ相手會社ノ指定アルトキハ其ノ會社、指定ナキトキハ主務大臣ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ相手會社ニ對シ之ヲ通知ス第一項ノ協議ハ各會社ニ於テ株主總會又ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第百二十二條 主務大臣ノ命令ニ依リ契約ノ移轉ヲ爲ス場合ニ於テハ會社ハ前項ノ規定ハ第三項ノ決議ニ之ヲ準用ス

條第一項ノ協議ヲ以テ移轉スペキ保険契約ニ關スル準備金ノ額ニ相當スル財產ヲ移轉スペキコトヲ定ムルコトヲ要ス

第百十一條 第二項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百一十三條 主務大臣契約ノ移轉ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ移轉スペキ保険契約ニ關スル計理ニ付特別ノ計算ヲ爲スペキコトヲ命ジ其ノ他移轉ヲ受クル會社ノ保険契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルベキ者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第百二十四條 契約ノ移轉ニ關スル協議ヲ爲サズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ契約ノ移轉ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第百二十九條 會社ガ合併ヲ爲ス場合ニ於テハ合併契約ヲ以テ其ノ保險契約ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第百二十九條 會社ガ合併ヲ爲ス場合ニ於テハ合併契約ヲ以テ其ノ保險契約ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第百三十二條 保険會社ガ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ清算人ヲ選任ス

商法第百二十二條、第百三十八條及第四百十七條第二項ニ定ムル清算人ノ選任ハ主務大臣之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ利害關係人ノ請求ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得

商法第百二十九條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百三十二條 保険會社ガ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ清算人ヲ選任ス

商法第百二十二條、第百三十八條及第四百十七條第二項ニ定ムル清算人ノ選任ハ主務大臣之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ利害關係人ノ請求ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得

商法第百二十九條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

主務大臣ハ監査役又ハ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主若ハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ依リ清算人ヲ解任スルコトヲ得但

第百二十七條 保険會社ハ其ノ營業ノ讓渡ヲ爲スコトヲ得

第百二十八條 保険會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ合併契約ノ要旨及各會社ノ貸借對照表ヲ公吉スルコトヲ要ス

第百二十九條 保険會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ合併契約ノ要旨及各會社ノ貸借對照表ヲ公吉スルコトヲ要ス

第百三十條 前條ノ合併アリタル場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ保険契約者ハ其ノ會社ニ入社シ株式會社ナルトキハ合併ニ因リテ解散スル會社ノ保険契約者ハ其ノ會社ナルトキハ相互會社ノ社員ハ其ノ地位ヲ失フ但シ保険關係ニ屬スル權利義務ハ合併契約ノ定ムル所ニ從ヒ合併後存續スル株式會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル株式會社之ヲ承繼ス

第百三十一條 前條ノ合併アリタル場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ保険契約者ハ其ノ會社ナルトキハ合併ニ因リテ解散スル會社又ハ合併後存續スル株式會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル株式會社之ヲ承繼ス

第百三十一條 前條ノ合併アリタル場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ保険契約者ハ其ノ會社ナルトキハ合併ニ因リテ解散スル會社又ハ合併後存續スル株式會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル株式會社之ヲ承繼ス

第百三十二條 前條ノ合併アリタル場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ保険契約者ハ其ノ會社ナルトキハ合併ニ因リテ解散スル會社又ハ合併後存續スル株式會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル株式會社之ヲ承繼ス

シ此ノ請求ヲ爲ス社員ニ付定款ヲ以テ
他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得
重要ナル事由アルトキハ主務大臣ハ前
項ノ請求ナクシテ清算人ヲ解任スルコ
トヲ得
商法第四百二十六條第二項ノ規定ハ保
險事業ヲ營ム株式會社ノ清算人ニハ之
ヲ適用セズ
第百三十三條 前條ノ規定ニ依リ清算人
ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ
之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其ノ額
ハ主務大臣之ヲ定ム

第百三十四條 保險會社ガ第百八條第一
項第二號、第六號又ハ第七號ニ掲グル
事由ニ因リテ解散シタルトキハ保險金
額ヲ支拂フベキ事由ガ解散ノ日ヨリ三
月内ニ生ジタルトキニ限り保險金額ヲ
支拂フコトヲ要ス

前項ノ期間經過ノ後ハ生命保險ヲ目的
トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲ニ
積立テタル金額 損害保險ヲ目的トス
ル會社ニ在リテハ未ダ經過セザル期間
ニ對スル保險料ヲ拂戻スコトヲ要ス

第百三十五條 商法第四百二十三條第二
項中裁判所トアルハ保險會社ニ付テハ
之ヲ主務大臣トス

第百三十六條 主務大臣ハ保險會社ノ清
算事務及財產ノ狀況ヲ検査シ、財產ノ
供託ヲ命ジ其ノ他清算ノ監督上必要ナ
ル命令ヲ爲スコトヲ得

第百三十七條 主務大臣ハ解散シタル保
險會社ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ必
要アリト認ムルトキハ業務及財產ノ管
理又ハ契約ノ移轉ノ命令ヲ爲スコトヲ
得

第百三十九條 第一條第一項ノ規定ハ前項ノ命令
アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八章 罰則

第一百三十八條 第一條第一項ノ規定ニ違
反シ免許ヲ受ケズシテ保險事業ヲ營ミ
タル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三十九條 保險管理人、保險計理人
又ハ相互會社ノ發起人、第七十三條第
一項ニ於テ準用スル商法第五十六條第
三項ノ設立委員、取締役、監查役、第
六十條若ハ第六十二條ニ於テ準用スル
商法第二百五十八條第二項、第二百七
十條第一項若ハ第二百七十二條第一項
ノ職務代行者若ハ支配人其ノ他事業ニ
關スル或種類若ハ特定ノ事項ノ委任ヲ
受ケタル使用人自己若ハ第三者ヲ利シ
又ハ會社ヲ害セントヲ圖リテ其ノ任
務ニ背キ會社ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタ
ルトキハ七年以下ノ懲役又ハ一萬圓以
下ノ罰金ニ處ス

第一百四十條 相互會社ノ清算人、第七十七條ニ於テ
準用スル商法第二百五十八條第二項、
第二百七十條第一項若ハ第二百七十二
條第一項ノ職務代行者又ハ第七十八條
ノ整理委員、監督呂署ハ管理人前項ニ
引ノ爲ニ會社財產ヲ處分シタルトキ
若ハ剩餘金ノ配當ヲ爲シタルトキ
コトヲ得

第一百四十一條 第一百三十九條若ハ第百四
十條ニ掲グル者又ハ相互會社ノ檢査役
若ハ第七十八條ノ監査委員其ノ職務ニ
關シ不正ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ
收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ
三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金
ニ處ス

第一百四十二条 第百三十九條第一項ニ
掲グル者又ハ相互會社ノ檢査役ハ左ノ
場合ニ於テハ五年以下ノ懲役又ハ五千
圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百四十三条 前四條ノ罪ヲ犯シタル者
ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スル
コトヲ得

第一百四十四条 第一百三十九條若ハ第百四
十條ニ掲グル者又ハ相互會社ノ檢査役
若ハ第七十八條ノ監査委員其ノ職務ニ
關シ不正ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ
收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ
三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金
ニ處ス

第一百四十五条 第一百四十四条第二項又
ハ自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免
除スルコトヲ得

第一百四十六条 第百四十四條第一項又ハ
タル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一
部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ
價額ヲ追徴ス

第一百四十七条 第百四十四條第二項又
ハ自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免
除スルコトヲ得

第一百四十八条 保險計理人第九十條第一
項ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ
確認ヲ爲サズ又ハ不正ノ確認ヲ爲シタ
ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ一千圓以
下ノ罰金ニ處ス

第一百四十九條 法人又ハ人ノ代理人、戶
主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業
者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第百
三十八條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ
其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザ
ルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ
得ズ

第一百五十條 第百三十八條ノ罰則ハ其ノ
者ガ法人ナルトキハ取締役其ノ他ノ法
人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者

第百四十二条 第百三十九條第一項ニ
掲グル者又ハ相互會社ノ檢査役ハ左ノ
場合ニ於テハ五年以下ノ罰金ニ處ス
一 保険契約者總會、相互會社ノ創立
總會又ハ社員總會ニ於ケル發言又ハ
議決權ノ行使
二 第二章、第三章及第七章ニ定ムル
訴ノ提起又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ
當ル株主若ハ十分ノ一以上ノ社員ノ
權利ノ行使
前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ
約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ
三 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ基
金ノ償却、基金利息ノ支拂又ハ利益
ヲ得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケ
タルトキ
四 會社ノ事業ノ範圍外ニ於テ投機取
引ノ爲ニ會社財產ヲ處分シタルトキ
若ハ剩餘金ノ配當ヲ爲シタルトキ
コトヲ得

第一百四十三条 第一百三十九條若ハ第百四
十條ニ掲グル者又ハ相互會社ノ檢査役
若ハ第七十八條ノ監査委員其ノ職務ニ
關シ不正ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ
收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ
三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金
ニ處ス

第一百四十四条 第一百三十九條若ハ第百四
十條ニ掲グル者又ハ相互會社ノ檢査役
若ハ第七十八條ノ監査委員其ノ職務ニ
關シ不正ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ
收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ
三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金
ニ處ス

第一百四十五条 左ニ掲グル事項ニ關シ不正
ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ收受シ
正ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ收受シ
得ズ

第一百四十六条 第一百三十九條若ハ第百四
十條ニ掲グル者又ハ相互會社ノ檢査役
若ハ第七十八條ノ監査委員其ノ職務ニ
關シ不正ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ
收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ
三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金
ニ處ス

第一百四十七条 第一百三十九條若ハ第百四
十條ニ掲グル者又ハ相互會社ノ檢査役
若ハ第七十八條ノ監査委員其ノ職務ニ
關シ不正ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ
收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ
三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金
ニ處ス

第一百四十八条 保險計理人第九十條第一
項ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ
確認ヲ爲サズ又ハ不正ノ確認ヲ爲シタ
ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ一千圓以
下ノ罰金ニ處ス

第一百四十九條 法人又ハ人ノ代理人、戶
主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業
者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第百
三十八條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ
其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザ
ルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ
得ズ

第一百五十條 第百三十八條ノ罰則ハ其ノ
者ガ法人ナルトキハ取締役其ノ他ノ法
人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者

又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テ

ハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五十一條 第百三十九條、第百四十

條、第百四十二條又ハ第百四十四條第

一項ニ掲タル者ガ法人ナルトキハ本章

ノ罰則ハ其ノ行爲ヲ爲シタル取締役其

ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員又ハ

支配人ニ之ヲ適用ス

第一百五十二條 保険會社ノ發起人、設立

委員、取締役、監査役、検査役、清算

人、第九十二條第一項ノ管理ノ受託會

社、保險管理人、整理委員、監督員、

商法第三百九十八條第一項（第七十八

條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ管理

人、監査委員、商法第二百五十八條第

二項、第二百七十條第一項若ハ第二百

七十二條第一項（第六十條、第六十二

條又ハ第七十七條ニ於テ準用スル場合

ヲ含ム）ノ職務代行者又ハ支配人ハ左

ノ場合ニ於テハ五千圓以下ノ過料ニ處

ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキ

一 第五條ノ規定ニ違反シテ他ノ事業

ヲ營ミタルトキ

二 第六條ノ規定ニ違反シテ他ノ會社

ノ常務ニ從事シタルトキ

三 本法ニ基キテ爲ス主務大臣ノ命令

妨げ又ハ忌避シタルトキ

四 本法ニ定ムル検査又ハ調査ヲ拒ミ、

不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シ

第五 官廳、總會又ハ第二十四條第一項

ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第九十

十四 第五十六條第一項（第七十七條

トキ

ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第九十

タルトキ

六 第十條第一項ノ規定ニ違反シテ第
一條第二項ニ掲タル書類ニ定メタル

事項ノ變更ヲ爲シタルトキ

七 本法ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠
リタルトキ

八 本法ニ定ムル公告、通知若ハ届出
ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告、

通知若ハ届出ヲ爲シタルトキ

九 本法ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナ
クシテ書類ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ
抄本ノ交付ヲ拒ミタルトキ

十 第十四條又ハ第三十八條第二項ノ
規定ニ違反シテ入社申込證ヲ作ラズ
又ハ株式申込證若ハ入社申込證ニ記
載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不實ノ
記載ヲ爲シタルトキ

十一 第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ
違反シテ資本減少ノ手續ヲ爲シタル
トキ

十二 第二十條乃至第二十七條ノ規定
ニ違反シテ組織變更ノ手續ヲ爲シタル
トキ

十三 定款、社員名簿、議事錄、財產
目錄、貸借對照表、事業報告書、監
查書、事務報告書、決算報告書、第
四十二條ニ於テ準用スル商法第三十
二條第一項ノ帳簿、第七十八條ノ調
査書、損益計算書又ハ基金ノ償却、
基金利息ノ支拂若ハ準備金及剩餘金
ノ配當ニ關スル議案ニ記載スベキ事
項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シ
タルトキ

十四 第五十六條第一項（第七十七條
トキ

ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第九十
四 第一百三十一條第二項ノ規定ニ違
反シテ特別清算開始ノ申立ヲ爲ス
トヲ怠リタルトキ

十五 清算ノ結了ヲ遲延セシムル目
的ヲ以テ第七十七條ニ於テ準用スル

一條又ハ第六十七條及第七十七條ニ
於テ準用スル商法第二百八十二條第
一項ノ規定ニ違反シテ社員總會若
ハ第五十一條第一項ノ機關ヲ招集シ
若ハ招集セズ又ハ定款ニ定メタル地
以外ノ地ニ於テ之ヲ招集シタルトキ

十六 本法又ハ定款ニ定メタル取締役、
監査役又ハ保險計理人ノ員數ヲ缺ク
ニ至リタル場合ニ於テ之ノ選任手續
ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

十七 第十九條第三項、第六十三條、
第六十五條、第八十六條又ハ第八十
七條ノ規定ニ違反シテ準備金ヲ積立
テズ又ハ之ヲ使用シタルトキ

十八 第八十八條第一項ノ規定ニ違反
シテ責任準備金ノ計算ヲ爲サズ又ハ
之ヲ帳簿ニ記載セザルトキ

十九 第七十二條ノ規定ニ違反シテ解
散ノ手續ヲ爲シタルトキ

二十 第七十五條又ハ第七十六條若ハ
定款ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ處
分シ又ハ減餘財產ヲ分配シタルトキ

二十一 第七十七條ニ於テ準用スル商
法第四百二十四條第三項ノ規定ニ違反
シテ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠
リ又ハ第七十八條ニ於テ準用スル商
法第四百三十一條第二項ノ規定ニ違
反シテ特別清算開始ノ申立ヲ爲ス
トヲ怠リタルトキ

二十二 清算ノ結了ヲ遲延セシムル目
的ヲ以テ第七十七條ニ於テ準用スル

商法第四百二十一條第一項ノ期間ヲ
不當ニ定メタルトキ

二十三 第七十七條又ハ第七十八條ニ
於テ準用スル商法第四百二十三條又
ハ第四百三十八條ノ規定ニ違反シテ
債務ノ辨濟ヲ爲シタルトキ

二十四 第七十八條ニ於テ準用スル商
法第四百四十五條第一項又ハ第二項
ノ規定ニ違反シタルトキ

二十五 第七十八條ニ於テ準用スル商
法第三百八十六條、第四百三十二條
第四百三十七條又ハ第四百五十四條
第一項ノ規定ニ依ル裁判所ノ財產保
全ノ處分ニ違反シタルトキ

二十六 第百一條第二項ノ規定ニ違反
シ正當ノ事由ナクシテ保險管理人タ
ルコトヲ拒否シタルトキ

二十七 主務大臣ノ選任シタル保險管
理人若ハ清算人又ハ裁判所ノ選任シ
タル管理人若ハ清算人ニ事業ノ引渡
ヲ爲サザルトキ

二十八 第百三條（第二百二十六條ニ於
テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ違
反シテ事業ヲ營ミタルトキ

二十九 第百二十二條ノ規定ニ違反シテ
保險契約移轉ノ手續ヲ爲シタルトキ

三十 第百二十七條ノ規定ニ違反シテ
營業ノ讓渡ヲ爲シタルトキ

三十一 第百二十八條第一項第二項、
第一百三十條第三項又ハ第七十三條ニ
於テ準用スル商法第九十九條若ハ第
百條ノ規定ニ違反シテ合併ノ手續ヲ
爲シタルトキ

三十二 第百十三條又ハ第一百十五條
(第二百二十九條第二項ニ於テ準用ス

ル場合ヲ含ム)ノ規定ニ違反シテ保

險契約、財産ノ處分又ハ債務ヲ負擔

スペキ行爲ヲ爲シタルトキ

第一百五十三條 保険計理人第九十條第二

項ノ規定ニ違反シテ答申ヲ爲サズ又ハ

虚偽ノ答申ヲ爲シタルトキハ五千圓以

下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ

科スペキトキハ此ノ限り在ラズ

第一百五十四條 第四條第二項ノ規定ニ違

反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第一百五十五條 不正ノ競争ノ目的ヲ以テ

相互會社ノ登記シタル名稱ト同一若ハ

類似ノ商號若ハ名稱ヲ使用シ又ハ不正

ノ目的ヲ以テ他ノ相互會社ノ事業ナリ

ト誤認セシムベキ商號若ハ名稱ヲ使用

シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第一百五十六條 非訟事件手續法第二百六

條乃至第二百八條ノ規定ハ第百五十二

條乃至前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第一百五十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ

以テ之ヲ定ム

第一百五十八條 本法ハ別段ノ規定アル場

合ヲ除クノ外本法施行前ニ生ジタル事

項ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ

依リテ生ジタル效力ヲ妨げズ

第一百五十九條 明治三十三年七月一日前

設立シタル保険會社ニシテ本法施行ノ

際現ニ存スルモノハ本法ニ依リテ事業

ノ免許ヲ受ケタル保険會社ト看做ス

第一百六十條 従前ノ規定ニ依リテ爲シタ

ル認可、處分其ノ他ノ行爲ハ本法中之

ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法

ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第一百六十一條 商法中改正法律施行法

(以下新商法施行法ト稱ス)第四條、第五

條、第九條、第十一條、第十二條第一項、

第十七條、第十八條、第十九條第一項

第三項、第二十二條第一項第二項、第

二十三條第一項、第二十四條、第二十

五條第一項、第二十九條第一項、第三

十條、第三十二條乃至第三十四條、第

四十一條乃至第四十五條、第四十八條

第一項第二項、第五十條、第五十一條

及第五十四條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ

準用ス但シ同法第三十三條第一項中新

法第百九十七條トアルハ之ヲ保險業法

第四十一條トシ第四十三條中新法第二

百六十七條トアルハ之ヲ保險業法第五

十七條トシ第四十四條中新法第二百六

十八條トアルハ之ヲ保險業法第五十八

條トス

前項ニ於テ準用スル新商法施行法第十

二條第一項、第二十三條第一項又ハ第

二十九條第一項ノ規定ニ違反シタルト

キハ其ノ相互會社ノ取締役ヲ五百圓以

下ノ過料ニ處ス

第一百五十九條 第一百五十九條ノ規定ハ本

法施行前ニ商號又ハ名稱ヲ使用シタル

場合ニハ之ヲ適用セズ

第一百六十條 本法施行前ニ從前ノ第五

章ノ規定ヲ適用スペキ行爲アリタルト

キハ本法施行後ト雖モ其ノ規定ヲ適用

ス

本法施行後從前ノ規定ニ依ルベキ場合

ニ於テ從前ノ第五章ノ規定ヲ適用スペ

キ行爲アリタルトキハ第八章ノ規定ヲ

適用ス

第一百六十一條 非訟事件手續法第二百六

條乃至第二百八條ノ規定ハ第百六十一

條第二項及第三項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第一百六十二條 本法施行前ニ會社ガ資本

減少ノ決議ヲ爲シ又ハ各會社ガ保險契

約移轉若ハ合併ノ決議ヲ爲シタル場合

法第十八條、第十九條第一項第三項、第五

條、第六十四條及第六十五條ノ規定ノ適用

ヲ妨げズ

第一百六十三條 本法施行ノ際現ニ保險會

社ノ常務ニ從事スル取締役若ハ監査役

又ハ支配人ニシテ他ノ會社ノ常務ニ從

事スル者ハ本法施行後一年ヲ限り第六

條ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ認可ヲ受

ケズシテ引續キ其ノ會社ノ常務ニ從事

スルコトヲ得

第一百六十四條 本法施行ノ際現ニ生命保

險會社ニ於テ保險數理ニ關スル事項ヲ

擔當スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本

法施行後三年ヲ限リ之ヲ本法ニ依ル保

險計理人ト看做ス

第一百六十五條 第百五十五條ノ規定ハ本

法施行前ニ商號又ハ名稱ヲ使用シタル

場合ニハ之ヲ適用セズ

第一百六十六條 本法施行前ニ從前ノ第五

章ノ規定ヲ適用スペキ行爲アリタルト

キハ本法施行後ト雖モ其ノ規定ヲ適用

ス

本法施行後從前ノ規定ニ依ルベキ場合

ニ於テ從前ノ第五章ノ規定ヲ適用スペ

キ行爲アリタルトキハ第八章ノ規定ヲ

適用ス

第一百六十七條 非訟事件手續法第二百六

條乃至第二百八條ノ規定ハ第百六十一

條第二項及第三項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第一百六十八條 本法ニ依リ署名スペキ場

合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フ

ルコトヲ得

第一百六十九條 外國人又ハ外國法人ガ本

法施行地内ニ支店、從タル事務所又ハ

代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム場合ニ

關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十條 本法施行ノ際必要ナル規定

ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(八田嘉明君)只今議題トナリ

マシタ保険業法改正法律案ニ付キマシテ提

案理由ヲ御説明申上ゲマス、提案理由ノ第

一點ハ、商法ガ改正セラレマシタルコトデ

アリマス、現行保険業法ハ相互會社ニ關ス

ル規定ノ他ニ於キマシテ商法ノ規定ヲ準

用シ、或ハ之ニ對スル特則ヲ設ケテ居ル點

ガ甚ダ多イノデアリマス、然ルニ御承知ノ

通り、此ノ商法ハ前議會ニ於キマシテ改正

ニ相成リマシタ、此ノ關係ヨリ致シマシテ

現行ノ保険業法ハ調和ヲ保ツ爲ニ、是非共之

ヲ改正スル必要ヲ認メタノデアリマス、提

案理由ノ第二點ハ、監督指導ノ方策ヲ整備

スル必要ノ生ジタコトデアリマス、我ガ國

ノ民營保険事業ハ、國力發展ト保險思想ノ

普及トニ依リマシテ、逐年自覺シイ發達ヲ

遂ゲ來ツテ居ルノデアリマス、國民生活ノ安

定茲ニ其ノ資金ノ運用ヲ通ジマシテ、國家

産業經濟ノ發展上極メテ重要ナル地位ヲ占

ムルニ至ツテ居リマスルコトハ、誠ニ御同慶

ニ存ズル所デアリマス、政府ニ於キマシテ

ハ從前カラ保險事業ノ公益性ニ鑑ミマシテ、

其ノ一層ノ普及發達ヲ圖リマスルト共ニ、

アリマス、然ルニ現行保険業法ハ明治三十

三年ノ制定ニ係リ、其ノ後二三ノ補正ヲ加

ヘタニ止マルノデアリマシテ、制定以來四

十年ヲ茲ニ經マシタ現在ニ於キマシテハ、

不十分ノ點ガ少クナイト認メラル、ニ至ツ

臺灣事業公債法中改正法律案ハ、關聯致シ
マスル所ガアリマス故ニ、朝鮮事業公債法
中改正法律案外三件ノ特別委員ニ併託セラ
レムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵植村家治 贊成

○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議

ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
スマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第四、臺灣
米穀移出管理特別會計法案、政府提出、衆
議院送付、第一讀會、松村政務次官

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月九日
衆議院議長 小山 松壽

臺灣米穀移出管理特別會計法案
第一條 臺灣總督府ニ於テ米穀ノ移出ヲ
管理スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入
ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 本會計ニ据置運轉資本ヲ置キ其
ノ金額ハ五百萬圓トシ漸次臺灣總督府
特別會計ヨリ繰入ルモノトス

第三條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル
爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔
ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ金
額ハ一千五百萬圓ヲ超ユルコトヲ得
ズ

第四條 本會計ニ於テハ米穀ノ賣渡代

金、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及

附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ米穀ノ
買入代金、米穀ノ買入賣渡加工貯藏及
運搬ニ關スル諸費、借入金ノ償還金

及利子、一時借入金ノ利子其ノ他諸費
ヲ以テ其ノ歲出トス

第五條 米穀ノ買入數量ノ增加其ノ他避
クベカラザル事由ニ因リ生ジタル豫算
ノ不足ヲ補フ爲歲出豫算ニ豫備費ヲ設
クルコトヲ得

第六條 本會計ノ歲出額ハ其ノ實際ノ歲
入及置運轉資本ノ合計額ヲ超過スル
コトヲ得ズ

第七條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足
アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ル
ベシ

第八條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足
アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借
入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年
度内ニ之ヲ返還スベシ

第九條 本會計ニ於テ決算上過剩ヲ生ジ
タルトキハ之ヲ積立ツベシ

本會計ニ於テ決算上不足ヲ生ジタルト
キハ前項ノ規定ニ依ル積立金ヨリ之ヲ
補足スベシ

第十條 本會計ノ積立金ハ之ヲ臺灣ニ於
ケル農業ノ調整、開發及助長ノ爲必要
ナル費途ニ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ本會計ノ積立金ヲ使
用セントストキハ其ノ金額ヲ臺灣總督
府特別會計ノ歲入ニ繰入レ臺灣總督

質疑ヲ始メタイト思ヒマス
○丸山鶴吉君 拓務大臣ガ御列席ノヤウデ
アリマスカラ、私ノ質問ハ相當長時間ニ亘
ルト思ヒマスカラ、成ルベク速カニ總理大
臣及農林大臣ノ御出席ヲ御願ヒ致シマシテ、

第十一條 本會計ノ積立金ハ國債ヲ以テ
保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ
ス、成ルベク早ク大臣ノ出席ヲ要求致シマ

運用スルコトヲ得

第十二條 本會計ノ毎年度歲出豫算ニ於
ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使
用スルコトヲ得

第十三條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出
豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ
帝國議會ニ之ヲ提出スベシ

第十四條 本會計ノ收入支出ニ關スル規
程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ昭和十四年度ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員松村光三君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松村光三君) 只今議題トナリ
マシタ臺灣米穀移出管理特別會計法案提出
ノ理由ヲ説明致シマス、臺灣總督府ニ於テ、

米穀ノ移出管理ノ爲ニ行フ米穀買入、賣
渡、加工又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歲入歲出
ハ、之ヲ他ノ會計ト區分シテ經理スルヲ適

當ト認メマスル所、之ガ爲特別會計ヲ設置
スルノ必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出
シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上、速

カニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス
○議長(伯爵松平頼壽君) 丸山君ニ伺ヒマ
スガ、御要求ノ大臣ハ、總理大臣、農林大
臣未ダ御出席ガアリマセヌデアリマスガ、

出席ヨザイマセヌデモ御質疑ヲナサレマス
カ、如何デスカ

○丸山鶴吉君 拓務大臣ガ御列席ノヤウデ
アリマスカラ、私ノ質問ハ相當長時間ニ亘
ルコトハ疑ハアリマセヌ、其ノ結果臺灣ニ

自然ナル高價デアリ、非常ナル高價ヲ維持シ
維持シテ居ルトハ思ツテ居テノイノデアリ
マス、勿論熱ト光ニ惠マレタル臺灣デアリ

シモ臺灣ノ米ガ一般ニ想像サレテ居ル程不
自然ナル高價、運賃諸掛等ノ關係ヲ考慮
致シマスト、サシテ不自然デアリ、不當デ

アリ、高價デアルトハ考ヘテ居リマセヌケ
レドモ、幾ラカ臺灣ノ米ガ有利ナ條件ニア
ルコトハ疑ハアリマセヌ、其ノ結果臺灣ニ

於キマシテハ米佐偏重ノ弊ヲ生ジテ來ル、
農民ガ米作ノ利益ガ多イト云フノデ、外ノ
作物ニハ向ハナイデ、米作偏重ノ傾向ヲ生

ズルカラ、之ヲ抑ヘル爲ニ米價ノ移出ヲ總
府特別會計ノ歲出トシテ拂出スベシ
○議長(伯爵松平頼壽君) 宜シウゴザイマ
ス、成ルベク早ク大臣ノ出席ヲ要求致シマ

ス、質疑ヲ通告ガゴザイマスカラ、丸山鶴吉君
(丸山鶴吉君演壇ニ登ル)

○丸山鶴吉君 只今議題トナリマシタ臺灣
移出米管理特別會計法案ハ、臺灣ノ移出米
ノ管理ヲ致シマスコトニ伴シテ、提出サレマ
シタ法律案デアリマスカラ、自然其ノ根本
デアリマス臺灣ノ移出米管理ニ關スルコト
ヲ検討致サナケレバナラヌト思フノデアリ
マス、此ノ臺灣ノ移出米管理ト云フ問題
ハ、可ナリ重大ナル影響ヲ持テ居ル重要
ナル事案デアリマシテ、今日當局ヨリ此ノ
席ニ於テ此ノ案ノ内容ノ御説明ヲ承ルコト
ハ出來ナインデアリマスガ、大陸臺灣ノ移
出米ノ管理ノ制度ハドウ云フモノデアルカ
ト云フコトヲ檢討シテ見マスルト、段々内
地デ米穀ノ統制ガ行ハレ、米價高ニナリマ
ス影響ヲ受ケテ、臺灣ノ米モ値段ガ段々高
クナッテ來ル、總督府デハ此ノ事ヲ不自然ナ
ル高價ヲ維持シ、不當ナル高價ヲ維持シテ
居ルト説明ヲサレテ居リマスガ、私共必ズ
シモ臺灣ノ米ガ一般ニ想像サレテ居ル程不
自然ナル高價デアリ、非常ナル高價ヲ維持シ
維持シテ居ルトハ思ツテ居テノイノデアリ
マス、勿論熱ト光ニ惠マレタル臺灣デアリ
シモ臺灣ノ米ガ一般ニ想像サレテ居ル程不
自然ナル高價、運賃諸掛等ノ關係ヲ考慮
致シマスト、サシテ不自然デアリ、不當デ

アリ、高價デアルトハ考ヘテ居リマセヌケ
レドモ、幾ラカ臺灣ノ米ガ有利ナ條件ニア
ルコトハ疑ハアリマセヌ、其ノ結果臺灣ニ

督府ニ於テ管理ヲ致シマシテ、石當リニ圓乃至四圓ノ差益ヲ收メテ、サウシテ臺灣ニ於ケル米ノ値段ヲ下ゲル、其ノコトニ依ツテ外ノ甘蔗、或ハ黃麻、苧麻、芭麻、或ハ棉等ノ有要作物ノ植付ヲ獎勵シテ行キタイ、斯ウ云フ大體ノ仕組デアルノデアリマス、一定ノ買上値段ヲ定ムテ、サウシテ總督府デ移出米ノ全部ヲ買上ニナツテ、ソレヲ内地ニ持ツテ來テ時價デ賣リマス、デ其ノ間ノ差額二圓ナリ四圓ナリヲ總督府デ收メラレルト云フコトニナル案デアリマス、大體總督府ノ御説明ヲ承リマスト、一應御尤ノ案ノヤウニ思ハレル節モアルノデアリマス、或ハ此ノ案ヲ檢討致シマシテ頗ル時勢ニ適合シタル計畫的產業ノ先驅ヲ爲スモノトシテ、之ヲ諷歎シテ居ルモノモアル、如何ニモ巧妙ニ出來タ臺灣全體ノ計畫的農業ノ振興ノ新シイ政策デアルトシテ、之ニ共鳴ヲシテ御イデニナル方モ少クナイノデアリマス、併シナガラ此ノ案自體ヲ考ヘマスト、其ノ及ス影響ハ可ナリ深甚ナルモノガアリマシテ、輕率ニ私共之ニ同意ヲ表スルコトガ出來ナイコト甚ダ遺憾ト致スノデアリマス、サツキ申上ゲマシタヤウニ、臺灣ノ米ガ幾ラカ内地ノ米ヨリハ有利ニ高クナル、是モ總督府ノ御示ニナリマシタ材料等デ検討致シマスト、サウ不自然デアリ、不當デアルト云フ程ノ収益デハナイト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ段々衆議院ニ於テ審議ガ進行致シテ居リマシタ跡ヲ顧ミテ見マスト、臺灣總督府ノ政府委員ニ當デアルト云フ程ノ収益デハナイト思フノソンナニ不當、不自然ナル高値デハナイト

思フノデアリマスガ、此ノ政策ヲ實行サレ
マス結果、結局他ノ有用作物デアル砂糖黍
デアリ、黃麻デアリ、苧麻デアリ、蓖麻デ
アリ、棉デアリ、諸デアリ、サウ云フモノ
ガ段々ニ發達ヲシテ來テ、サウシテ臺灣ノ
農業ハ段々多角形的ノ經營ニナリ、從ツテ臺
灣ノ農家ノ生活ハ安定スルノデアルト説明
サレテ居ルノデアリマス、併シナガラ此ノ
有用作物ト稱セラル、砂糖黍ニシテモ、其
ノ他ノ麻類ニ致シマシテモ、今日迄總督府
ノ御獎勵ノ結果ニ依リマシテ年々著シ基勢
ヲ以テ增産ヲ致シテ居リマスコトハ事實デ
アルノデアリマス、必ズシモ米價ノ頭ヲ刎
ネテ米價ヲ引下ゲナケレバ、是等ノ有用作
物ヲ獎勵スルコトノ出來ナイト云フコトハ、
是ハ事實上ナイコトデアル、又此ノ有用作
物ト云フ言葉ヲ使用サレ、頻ニ宣傳ヲサレ
テ居ル中ニハ、如何ニモ時局柄是ナケレバ
ナラヌノデアル、デアルカラ此ノ事變ニ對
スル時局對策トシテモ此ノ獎勵ヲヤラナケ
レバナラヌノデアルガ如クニ誤解ヲ生ンデ
居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ必
ズシモ是ナケレバ此ノ時局ヲ押通スコトガ
出來ナイ作物デアル譯デハナイノデアリマ
ス、例ヘベ蓖麻ノ如キ、飛行機ノ滑油ノ材
料ニナリマスモノガ、今ノヤウナ輸入統制
ノ狀態デアリマスカラ、直接軍需ノ必要ガ
アルト申シマスレバ、蓖麻ノ如キモノハ直
接今ノ事變ニ影響ノアル作物デアルト思フ
ノデアリマス、是ノ如キハ現ニ總督府ノ御
獎勵ガアリマシテ、昭和八年ニハ僅ニ二百
六十甲步デアツタノデアリマス、昭和十一年
ニ躍進ヲ致シマシテ千九十一甲歩迄進ンデ
居ルノデアリマス、事變勃發以來、愛國蓖
麻ト稱シテ臺灣農民ニ頻ニ御獎勵ニナリマ

シタ、時局ニ順應スルコトハ臺灣農民ニ於キマシテモ頗ル共鳴スル所デアリマスカラ、相次イデ此ノ莧麻ノ栽培ニ掛リマシテ、昭和十二年ニハ八千甲歩ニ及ビマシテ、其ノ產額モ十一年ノ四十萬六千斤ニ對シマシテ三百十四萬三千斤ヲ出シマシテ、一躍ニ八倍以上ノ產額ヲ示シテ居ルノデアリマス、デ時局ニ必要デアルカラト云フコトデアリマスナラバ臺灣ノ農民諸君モ奮ツテ斯クノ如キ立派ナル成績ヲ現シテ居ルノデアリマス、其ノ他黃麻、苧麻、棉ト云フモノハ勿論、今ノ輸入統制ノ時代デアリマスカラ、時局ニ關係ガナイトハ申シマセヌケレドモ、此ノ時局ガアル爲ニ大イニ此ノ植付ヲ獎勵セナケレバナラヌト云フ特別ノ理由デハナインオデアリマス、如何ニモ有用作物ノ獎勵ト云フコトヲ宣傳ヲ致シマスト、今ノ時局ニ必ズナケレバナラヌ品物デアルカラト云フ風ニ宣傳ヲサレテ、是モ一般世論ノ誤解ヲ招ク因ニナツテ居ルノデアリマスガ、事實ハサウ云フ次第アリマス、ソレデアリマスカラ、是等ニ對シマシテモ若シ御獎勵ニナラウト云フ趣旨デアルナラバ、臺灣總督府ノ十年計畫ノ增產計畫ガ發表ニナツテ居リマスガ、其ノ位ノ程度ノ增產ヲ御圖リニナラウト云フコトデアルナラバ、兎ニ角御獎勵ニ依ツテ十分目的ハ私ハ達シ得ルノデ、何モ米ノ値段ヲ引下ゲテ農民ニ一ツノ重大ナル負擔ヲ掛ケテ迄ヤラナケレバ、ドウシテモ出來ナイ性質ノモノデハナイト思フノデアリマス、デ此ノ管理案ノ提出ノ理由トシテ、頻ニ有用作物論ガ唱ヘラレテ居リマスモ、レドモ、是ハ仔細ニ検討ヲ致シマスト、必ズシモ此ノ管理案ノ方法ニ依ラナクテモ、十分總督府ノ期待サレテ居ル所ノ目的

ハ達セラレルノデアル、元來農產物ノ增産
獎勵等ヲ爲サルノニ、或品物ガ少シ條件ガ
好イカラト云フノデ、ソレヲ頭ヲ叩イテ、
サウシテ外ノ物ヲ獎勵シテ行カウト云フヤ
ウナ主義ハ、今日迄我國ニ於テモ執り
ニナツテハ居ラヌノデアリマス、或不利ナ
ル條件ニアル物ヲヨリ好ク增産サセヨウト
云フコトニナリマスレバ、特ニ政府ガ之ニ
獎勵金ヲ與ヘ、補助金ヲ與ヘテ、サウシテ
之ヲ助長發達セシムルト云フコトガ是ガ主
眼デナケレバナラヌ、例ヘバ煙草ガ專賣ニ
ナリマシテ、煙草ノ栽培ヲ御獎勵ニナルト
言ヘバ、是ガ米ヲ作ルヨリモ有利デアリ、麥
ヲ作ルヨリモ有利デアルト云フ條件ニ保護
助長ヲサレマス結果、段々ニ所要ノ煙草ヲ
得ルコトガ出來ル、斯ウ云フ風ナ狀況ニア
ルノデアリマスカラ、必ズシモ今ノヤウニ
少シ進ンダモノヲ頭ヲ叩カナケレバ、外ノ
モノヲ獎勵スルコトガ出來ナイト云フコト
ハ、私共ドウシテモノ承服スルコトハ出來ナ
イノデアリマス、ゾレデ結局石當リニ圓乃
至四圓ヲ總督府デ此ノ利差ヲ御取リニナル
結果ハ、直接直グ現レルモノハ何デアルカ
ト申シマスレバ、農民ノ收入ノ減デアル、
臺灣ノ米ハ此ノ頃約千萬石、九百何十萬石
ノ收穫ニナツテ居リマスガ、其ノ中デ内地ニ
移入ヲ致シマス蓬萊米ハ、其ノ半額ノ四百
九十萬石、マア五百萬石ノ米デアリマス、
デアリマス、併シは内地へ移入シマス五
百萬石ヲ目的デアリマスケレドモ、内地ヘ
移入シナイ臺灣ニ於ケル消費米モ、是ハ一
物一價ノ原則ニ依リマシテ、移入ノ米ガソ

段々島民諸君が皇民化シテ參ツテ居リマスシ何ト申シマシテモ、統治僅カニ四十幾年デアリマス、全ク新附ノ同胞デアリマス、ソレデアリマスカラ鬼モスレバ僻ミ根性ヲ持チ易イ、邪推ヲシ易イ、之ヲ統治スル人ノ心持ハ其ノ心理ヲ握リ、其ノ心ヲ獲ルコトニ最善ノ努力ヲ盡シマセヌト、鬼モスレバ反感ヲ懷キ色々ノ問題ヲ惹キ起ス所ノ因ニナルノデアリマス、苟モ斯クノ如キ刺戟ヲ與ヘル問題ヲ考ヘナイデ、若シ總督府ノ言ハレルヤウニ、農民ニ負擔ノ餘力ガアルノダ、臺灣ノ農民ハ富ンデ居ルノダト云フコトデアルナラバ、又土地ガ非常ニ生産力ヲ持ツテ居ルト云フコトデアルナラバ、或ハ地租トシテ之ニ課税シ、或ハ農民ノ所得ガ大キイト云フコトデアルナラバ、農民ノ所得ニ所得税トシテ之ヲ課シテ、サウシテ臺灣總督府ノ費用ヲ以テ、或ハ農業ヲ振作ヲシ、獎勵ヲスルト云フ制度ヲ御採リニナッテモ差支ナイ、ソレヲ特ニ斯クノ如キ目立ツガ如キ制度ヲ御採リニナルコトガ、私ハ臺灣ノ島民諸君ヲ本當ニ我ガ帝國ニ信頼ヲ、サセ、靡カシメル所以デハナイト思フノデアリマス、誠ニ拙劣ナル策デアルト私ハ思フ、然ルニ是ガ非常ナル名案ノ如ク、非常ナ社會的ニ即應シタ新規ノ計畫デアルガ如ク宣傳サレルコトハ、誠ニ私ハ眼ノ無不行キ方デアルト思フノデアリマス、モウ一ツ私ガ非常ニ遺憾ニ堪ヘナイト思ヒマスコトハ、臺灣ニ於キマシテ農產ノ一番大キナ問題ハ米デアリマスガ、其ノ次ニハ砂糖蒸ダアリマス、先覺ノ士、總督ノ獎勵ニ與ツテ、臺灣ニ於テ糖業ガ非常ナ發展ヲ致シマシタ、今デハ砂糖ニ付テハ御承知ノ通り自給自足ガ

出來ル位ノ程度ニ迄發達ヲ致シマシタ、勿論其ノ發達ヲ見ル迄ニハ糖業者ノ苦心經營ノ然ルベシト思ヒマス、ソレガ爲ニ多數臺灣ノ農民諸君ガ利益ヲ受ケテ居ルコトモ甚大デアツテ、此ノ點ハ島民諸君モ感謝ヲシテ常ニ相對立シテ居ル、ソレデアリマスカラ、米ノ値段方上レバ砂糖黍ノ値段モ上ル、米ノ値段ガ下レバ砂糖黍ノ買上ノ値段モ下グルト云フコトニナツテ、是ガ相對立致シテ居ル、デアリマスカラ臺灣デハ米糖相剋ト言テ居ル、米ト砂糖ト云フモノガ互ニ相争ツテ居ルト言ツテ居ル位デアリマス、ソレデアリマスカラ、米ガ一石二圓方ヲ下ゲルト云フコトニナリマスレバ、其ノ結果ハ砂糖黍ノ値段ガ下ツテ來ルト云フコトハ是ハ當然ナノデアリマス、併シ此ノ砂糖黍ヲ作ルト云フコトニ付キマシテモ、臺灣ノ農民ガ今迄不平ヲ持ツテ居ルコトハ皆様セ御承知ノコトト思フノデアリマス、色々獎勵助長ヲシテ下サツタコトハ有難イノデアリマスケレバ、必ズシテ何々製糖會社ニ持ツテ行ツテ納メナケレバナラナイ、他ニ持ツテ行ツテ之ヲ賣リ、他ニガ出來マシテ、總督府令ガ出テ居リマシテ、或一定ノ地域ニ作ツタ砂糖黍ハ、必ズシテ制度ニナツテ居ルノデアリマス、私ハ今更此ノ砂糖黍ノ收納區域制度ト云フモノヲ根本的攻撃致スモノデハアリマセヌケレドモ、臺灣ノ砂糖黍ヲ作ル農民カラ申シマスレバ、作ツタ砂糖黍ハ自分ノ物ナノデアリマス、

自分ノ粒々辛苦デ出來タ砂糖黍テアルガ、
實ハ所有權ハ制限サレテ居ル、或一定ノ金
社ニ持ツテ行カナケレバ納メルコトガ出來ナ
イコトニナッテ居ル、是ハ糖業發達ノ過程
於キマシテハ、此ノ收納區域制度ト云フヤ
ウナコトモ、原料ヲ確保スル爲ニハ必要ナ
制度デアルト思フノデアリマスケレドモ、
兎ニ角農民カラ致シマスレバ、一年モ八箇
月モ前ニ、砂糖會社カラ砂糖黍ハ一斤幾ラ
買フ、千斤幾ラデ買ワゾト云フ買値ヲ發奉
シテ、作ッタラ其ノ間ノ狀況ハ如何ナルコト
ガアツテモ、其ノ會社ノ發表シタ値段デ其ノ
會社ニ持ツテ行ッテ納メナケレバ、砂糖黍ヨリ
納メルコトガ出來ナイ、デアリマスカラ今
迄デモ少シ目覺メタ農民ハ、收納區域制度
ト云フモノヲ撤廢シテ吳レト云フ運動、甚
ノ叫ビ聲ト云フモノハ今迄デモ屢アツテ巨
ル、デ今度ハ米ガ斯ウナル、臺灣ノ農民ニ
唯一ノ逃げ途ハドウデアルカト言ヘバ、甚
シ製糖會社ガ非常ナ不當ナ低イ砂糖黍ノ値
段、買上ガ値段ト云フモノヲ定メマスレバ
砂糖ヲ作ラズニ米ヲ作ラツテ逃ゲテ行ク、斯
云フコトガ出來ルノデアリマスカラ、ソ
デ砂糖會社モ無暗ニ砂糖黍ノ値段ヲ値下シ
テ、買上ガ値段ヲ發表スルコトガ出來ナイ
常ニ米ノ値段ヲ見合セナケレバ此ノ値段
發表スルコトガ出來ナイ、僅カニ農民ハ垦
地助カツタ思ラ致シテ居ッタノデアリマス、
ソレデ今度ハ強制的ニ米ノ段値ガ石當リ
圓引キ下ゲラレテシマウ、全ク考ヘ方ニ依
レバ臺灣ノ農民ハ其ノ重要農產物ニ對シテ
全ク自己ノ自由ト云フモノヲ本當ニ束縛サ
レタヤウナ感ジガアル、ソレデアリマスカ
ラ何ト致シマシテモ、米ノ値段ヲ下ゲル結

來ルコトハ決ツテ居ル、サウ致シマスト砂糖會社ハドウ云フコトニナルカト言ヘバ、總督府ノ今度御採リニナル所ノ政策ニ依ツテ、何等勞スル所ナク其ノ儘砂糖黍ノ値段ガ安コトニナル、是ハ三尺ノ童兒ト雖モ、是ハ臺灣ニ一度デモ足ヲ踏ンダ人ナラバ必ズ分リ得ルコトナンド、砂糖會社ノ現況ハドウデアルカト言ヘバ、今迄ノ粒々苦心ノ結果デハアリマスケレドモ、年々歲々利益ヲ舉ゲテ、兎ニ角最近總督府デ發表サレタ最近五箇年ノ利益ノ高ヲ見マシテモ、昭和十三年度ノ如キハ七千何百萬圓ト云フ純益デアリマス、投資資本ニ割當テ見マスト、少イ會社デモ三割、大キイ會社ハ四割幾分ト云フ利益率ニナツテ居ルノデアリマス、砂糖會社ノ總テノ利益率ハ三割三分ノ平均ニ出テ居ル、ソレヲ今度ノ政策ニ依ツテ米ノ値段ヲ石當リ二圓下ゲルト云フコトニナレバ、從テ砂糖黍ノ値段ト云フモノモ下ツテ來ル、ソレダケハモウ勞セズシテ砂糖製造業者ト云フ者ハ利益ヲ得ルト云フコトハ極メテ明瞭ナコトデアル、然ルニ利益ヲ得ルコトガ悪いトハ申シマセヌケレドモ、此ノ粒々辛苦シテ居ル二百五十萬人ニ近イ農民諸君カラハ、一戸當リ少クトモ米ダケデモ五十圓ノ收入減ニナルコトア此ノ府令ニ依ツテ御ヤリニナラウトシテ居ル、砂糖會社ニ何ニモゼニ置イテ今迄スラモ既ニ三割三分ト云フ平均ノ利益ヲ得テ居ル會社ガ、此ノ制度ノ結果ニ依ツテ非常ニ利益ヲ得ルト云フノニ、製糖會社ニ對シテハ……比ノ儲ケル所ノ砂糖會社ニ對シテハ何等御考ニナツテ居ラヌ、是ハ今デモ總督府ハ糖業令ト云フモノヲ出シテ、糖業モ統制スルノ

デアルト説明ヲサレテ居リマスケレドモ、
抑、重要物産調整委員會ト云フモノガ特ニ
設ケラレテ、朝野ノ名士ヲ集メテ、此ノ米
穀移出米管理ノ要綱ト云フモノヲ御懸ケニ
ナッテ協議ニナッタ、其ノ時ニ此ノ重要物產
ノ調整委員會ト云フモノニ對シテハ、米穀
統制ノ移出米ノ問題ハ御提出ニナッタ
ケレドモ、勿論糖業ニ對シテハ、何等ノコ
トモ御提出ニナッテ居ラスノデアリマス、遂
ニ此ノ委員會ノ諸君ガ態々臺灣迄出掛ケテ
行カレテ、諸方ヲ實地ニ検分サレタ結果、
如何ニモ是ハ片手落チダ、ダカラ此ノ米穀
移出米ノ管理ヲ致スナラバ、ドウシテモ糖
業ノ統制ヲ致サナケレバイカヌ、ダカラ附
帶決議トシテ、委員會ノ決議錄ヲ見マスル
ト、總督府ハ進ンデ糖業ノ統制ヲ一段ト強
化スル方策ヲ講ジロト、斯ウ云フコトヲ書
イテ居ル、ソレデアリマスカラ此ノ決議ニ
基イテ初メテ總督府ガオット氣ガ付イタ如
ク、糖業ニ對シテ糖業令ト云フモノヲ出ス
ノダト言テ居ラレマス

ノ資本家デアリ、而モ多クハ内地ノ有力資本家ガ投資ヲシテ居ル糖業デアル、是ニハ一指モ觸レナイデ置イテ、何ニモ考ヘズニ置イテ農民ノ頭ダケ刎ネルト云フ、此ノ案ヲ總督府ガ作ツタ其ノ心理ニ對シテ、其ノ總督府ヲ臺灣農民ガ本當ニ眞剣ニ考ヘタラドウ考ヘル、如何ニモ片手落デヒトイヂヤナカレテ、サウシテ糖業ニモ統制ヲ強化シナケレバ、バイカスト云フ附帶決議ニ基イテ、初メテ總督府ガ之ニ氣ガ付イテ、糖業令ヲ出スト今デハ言ツテ居ラレル、ケレドモ如何ナル内容ノ糖業令ヲ御作リニナルノカ、今迄ツモ御示ニナツテ居ラヌ、斯ウ云フ行キ方ガ一體外地ノ新附ノ同胞ヲ統治ヲシテ行カウト云フ根本ニ私ハ反シテ居ルノダ、斯ウ云フ考ヘ方、斯ウ云フモノノ取扱方ガ、是ガ本當ニ外地ノ統治ノ上ニ於キマシテハ一番要訣デアッテ、斯クノ如キ事ヲスルコトニ依ツテ、其ノ外地民ノ心ヲ獲ヨウト云フ政治業令ト云フモノハ臺灣總督府ノ律令デ御出シハ、私ハドウシテモナリ切ラスト思フノデアリマス、ソレハ私ハ遲クテモ、氣ガ付カレタコトハ宜イノデアリマスガ、併シ糖權能ハナインデアリマス、何ヲ御作リニナッテモ後デ小言ハ言ヘマスケレドモ、我々ハモノヲ隠シテ御イデニナツテ、サウシテ農民ノ頭ニ直グ掛カル問題ダケハ、直グ何カ御決定ニナラウトスウ云フコトニナルノデアリマスカラ、私ハ此ノ案ガ外地ノ統治ニ及ス影響ト云フモノハ、非常ニ重大デアルト

思フ、斯ウ云フ行キ方デハイケナイト云コトヲ私ハ本當ニ信ジテ居ルノデアリマス（拍手）餘り長クナリマスカラ、先ヅ此ノ付キマシテ總理大臣ノ御意見ヲ承リマス、先ヅ總理大臣ハ此ノ案ニ付テ、今私がタ上デ、案ノ内容ニ付キマシテ更ニ主管ニ付キマシテ付タ點ニ付テ、如何ナル御高見ヲ持ニナツテ居ルカト云フコトノ御答辯ヲ得持ニナツテ居ルカト云フコトノ御答辯ヲ得タイト思ヒマス（拍手）

○國務大臣（男爵平沼驥一郎君） 丸山君、御質問ニ御答ヲ致シマス、今回提出ニナツテ居リマスル臺灣米穀移出管理事業、是ハ臺灣ノ重要產業ノ調和的發達ヲ圖ルト云フコガ目的デアリマス、又一面ニ於テハ之ニ依テ農家經濟ノ安定、向上ヲ圖リマスルトニ思フコトガ目的デゴザイマス、次、丸山君ノ御質問ノ趣旨ハ、本案ガ臺灣統治上支障ナキヤ否ヤ、支障ガアルヤウニ考ヘルガドニ思フカト云フコトガ御質問ノ骨子ノヤウニ考ヘマス、固ヨリ本案實施ニ依リマシテ時的ニハ農家經濟ニ多少ノ影響ノアルトニコトハ覺悟シナケレバナリマセヌガ、併シ大體ニ於キマシテ本案ノ目的ガ將來ニ於ケル農家經濟ノ安定向上ヲ期スルト云フコトニアルノデアリマシテ、是ハ現在ノ實ヨリ考ヘマシテ、確實ニ此ノ遂行ハ出來ノ上ニ於テ、惡イ影響ハナイモノト考ヘルノデアリマス、從シテ之ニ依ツテ臺灣統治上ニ惡シキ影響ヲ及スト云フコトニ付キマシテハ、全ク懸念ハナイモノト信ズルノデアリマス、又之ニ依リマシテ内地ト臺灣トノ

通ノ平常時ニ於ケル計畫トシテ、此ノ臺灣上カラ、時宜ヲ得タモノデナイト斯ウ云フコトヲ考ヘラレルノデアリマス、現ニ此ノ十四年米穀年度ニ於キマシテハ、益、米ノ消費ガ増加スルグラウト云フコトヲ農林省當局デモ御心配ニナリマシテ、現ニ十四年度ノ豫算デ豫算ヲ要求サレマシテ、内地デハ三百萬石増産ノ計畫ヲ御立テニナッテ居ル、朝鮮ニ於キマシテハ三箇年二百萬石増産ノ計畫ヲ立テ、ソレドモ豫算ガ成立ヲ致シテ居ル譯デアル、ウント米ヲ作ラナケレバナラヌ、萬一此ノ事變ノ際ニ米ノ不足ヲ來スヤウナ虞ガアツテハイカスト云フ御用意デアツタト思ヒマス、然ルニ觀念トシテモ、臺灣ハ米作偏重ニナル虞ガアルカラ、米ノ頭ヲ叩イテ米ヲ少クスルノデアル、臺灣總督府デハ言葉ヲ盡シテ減產ニハナラヌ、決シテ減リハシナイ、矢張リ計畫的ニ増産ヲスルノダト證明ヲサレテ居ルノデアリマスケレドモ、此ノ制度自體ノ根本ガ何ニアルカト言ヘバ、臺灣ノ農產物ノ中ニ米作偏重ニナルカラ、ソレヲ抑ヘル爲ニ米ノ値段ヲ下ゲルノダト云フコトニナレバ、誰ガ喜ンデ作ル人ガアリマセウ、滔々トシテ外ノ作物、主トシテ砂糖黍ヲ作ルコトニドン／＼轉換シテ行クニ違ヒナイト思フ、ソレデアリマスカラ總督府デハ減產ニナラヌト云フ、其ノ言葉ヲ信ジテ減產ニナラヌト致シマシテモ、減產ニナラスト云フ程度デ今満足スル時デハナイノデアリマス、朝鮮デモ内地デモ、是ダケノ增産計畫ヲ立て居ル時ナシデアリマス、殊ニ熱ト光ニ惠マレテ居ル臺灣デアルカラ、作レバウント作ツ出來ルノデアリマスカラ、此ノ際ウント作ツ

ガアルベギコトガ、戰時食糧對策ノ手段デ
アルト私ハ思フ、ソレヲ今無理矢理ニ之ヲ
施行スル減產ノ虞アルモノ……總督府ハ
減產スルコトハナイト説明サレテ居リマス
ケレドモ、ソレハ納得ガ出来ナイ、米ノ値
段ヲ引下ゲテ置イテ、サウシテ米ヲ獎勵ス
ルト言ツテ見タリ、ドウシテモ減產ニナラヌ
ト云フ説明ハ衆議院ノ委員會デ縁々繰返
シ繰返シ言ツテ居ラレマス、水利灌溉ヲヤル
ノダ、今迄水利灌溉ヲ止メテ居ツタガ、ソイ
ツヲヤラスヤウニスル、或ハ防風林ト云フ
モノヲ造ツテ、サウシテ風害ヲ豫防シテ、サ
ウシテ兎ニ角増產ヲスルノダ、段當リノ收
量ヲ増スノダト言ツテ御イデニナルリマス
ケレドモ、水利灌溉ト云フモノ全體ニ通
ジテ之ヲヤラウト云フコトハ、二年三年デ
出來ルモノデヤアリマセヌ、防風林ヲ造ツテ
風ヲ防グノダト仰セラレマスケレドモ、臺灣
ノヤウニ樹木ノ成育ノ早イ所デモ、三年モ
ヤ四年デ直グソレガ防風林ノ用ヲ爲ストモ
思ハレヌノデアリマス、色々肥料ヲ澤山入
レタリシテヤレバ、段當リノ、一町歩當リ
ノ收穫量ガ殖エテ行クト云フヤウナコトハ
アリ得ルト思ヒマスケレドモ、兎ニ角私共
ハサウ總督府ガ簡單ニ證明セラレルヤウナ
コトデ、増產ニナルノダト云フコトハ、私
ドウシテモ承服スルコトガ出來ナイノデア
リマス、縱ンバ減產ニナラス、幾ラカ殖エ
ル、十年計畫ヲ見マスト來年一度ハ二十萬石バ
位定エルヤウナ計畫ニナツテ、其ノ方針デ臺灣ノ
後ノ增產計畫デハ臺灣總督府ノ發表サレテ
居リマスル所ニ依リマスレバ、二百萬石バ
カリ殖エル計畫ニナツテ、其ノ方針デ臺灣ノ
米ヲ殖ヤシテ行クト云フ計畫ガ出テ居ル、
二百萬石ト云フト大キイヤウデアリマスガ、
其ノ中デ蓬萊米ヲ日本ニ持ツテ來ル所ノ增
產ハ僅カニ六十六萬石、十年經ツタ後ニ六
十六萬石ヲ增產スル計畫ナンデアリマス、

ニ持ツテ來ル米ノ高ト云フモノハ六萬六千石ヅ植ヤシテ行クト云フマア大體計算ニナツテ行クノデアリマス、平均ヲ致シテ見マスレバサウナルノデアリマス、處ガソンナコトデハ今ノ食糧問題ニハ間ニモ何ニモ合ハヌノデアリマス、現ニ内地ガ三百萬石増産ヲシ、朝鮮ガ三箇年ニ二百萬石ノ増產ノ經費ヲ御取リニナツテ銳意努力シテ、是カラ御殖ヤシニナラウトシテ居ルナカヽ内地デ三百萬石ト云フモノハ、天候ト餘程好イ條件デナケレバナカヽ植エテ參リマセヌ、俄ニ開墾ヲシテ水田ヲ殖ヤスト云フ譯ニハ行カナイ、段當リノ此ノ收量ヲ増シテ行クコトニ努力シナケレバナラヌ、ソレニハ今ハ多數ノ壯丁ガ出テ居リマスシ、軍馬其ノ他ガ徵集サレマシテ、其ノ勞力ハ不足ヲ致シテ居リマス、軍需工業ニ段々人ガ引張ラレテ、農園デ働ク人ハ少クナツテ來テ居ル、トモスレバ日本デモ之ヲ減產スル虞ガアル、農林當局ノ苦心ト云フモノハ私ハ竝ミ大抵デハナイト思フ、ソレヲ三百萬石殖サウト云フコトニナツテ居ル、處ガ其ノ後ノ事變ノ情勢カラ考ヘテ、農林省ノ今ノ推算デハ、是デハ足リナイ、ドウシテモ五百五十五石位、十四年度米穀年度デ增產ヲシナケレバ、ヒヨットシタナラバ食糧問題ニ不足ヲ來スル虞ガアルト云フノデ、俄ニ方針ヲ變ヘラレテ、内地デ四百萬石、朝鮮、臺灣デ五百六十萬石、今迄ノ計畫以外ニ百五六十萬石ノ澤山ノ增產ヲ圖ラウト云フコトヲ專ラ協議ヲサレテ居ルト云フコトハ、先日新聞ノ傳フル所デアリマス、衆議院ニ於テ此ノ事が問題ニナリマンテ、委員會デノ種々問答ヲ、只今速記錄ヲ讀ンデ見マスルト、ドウシテモ明カニ朝鮮デ幾ラ、臺灣デ幾ラト仰シヤイマセヌ政府委員ハ……、農林大臣モ出ア、或ハ五十萬石ト云フヤウナコトヲ言ハレタリ、或ハ七十萬石ト云フヤウナコトヲ言ハ

レタリシテ居ル、ダカラ臺灣が受持タナケレバナラライ臨時ノ増産デモ、或ハ五十萬石乃至七十萬石ト云フ大キナ米ヲ受持タナケレバナラヌコトニナル、斯ウ云フ情勢デアリマス、ソレデアリマスルカラ、今迄十四年度豫算ヲ御組ミニナル迄見當ヲ付ケラレテ居ツタ内地テ三百萬石、朝鮮デ三年間二百萬石ノ増産計畫デハ、是ハ足リスト云フコトデ、斯ウ云フコトデ内地デ更ニ百萬石ヲ受ケ、更ニ其ノアトノ百五六十萬石ヲ朝鮮ト臺灣トデ分擔シテ作ラウト云フコトデ、今銳意協議サレテ居ルト云フコトデアリマス、ドウ落付クカ知リマセヌケレドモ、結局兎ニ角臺灣ガ此ノ増産ノ五十萬石カ、七十萬石ヲ十四年度米穀年度ニ受ケテ、増産ヲ御圖リニナラナケレバナラヌ、斯ウ云フコトニナシテ居ル時ニ、米ノ値段ハ石當リ二圓減ラスノダ、サウシテ五十萬石モ七十萬石モ餘計作レト云フコトヲ獎勵シヨウト云フコトハ、是ハドウシタッテ矛盾シテウカノコトデアルト申サナケレバナラヌ、サウ云フ時ニハ、米ノ値段デモ上ガテ、有利ニシテヤルト云フ方法デモ御執リニナルコトガ寧ロ其ノ政策デアル、ダカラ平時ノ計畫経済トシテ、此ノ移出米管理ト云フコトヲ認メルコトガ出来ルトシテモ、兎ニ角差當リ日本ノ此ノ實ニ緊密ナ非常時下ニ於ケル食糧政策ノ上カラ判斷シテ見マスルト、コソナ矛盾撞著ノ一體政策ハナイ、頭ヲ刎不テ置イテ、通常デモ増産ノムツカシイ所アリ、臺灣ガ今迄計畫シテ居ル二十萬石ノ増産ヨリモ更ニ五十萬石、成ハ七十萬石ノ増産ヲ圖ラウト云フノ間際ニ、臺灣ノ農民ノ所得ニ當然ナルベキモノノ頭ヲ石二圓ナリヲ別ネテ、而モ之ヲ獎勵ヲヤラウト斯ウ云フノデアルノデアリマス、實ニ私ハ此ノ戰時食糧政策ノ上カラ言ツタラ、矛盾撞著ノツノ法案デアルト斷定セナケレバナラヌノデアリマス、ソレデモ出來ルノダ、ソレ

デモヤルノダト言ハレルナラバ、ソレコソ
又統治ノ上ニ無理ガ行クコトニナッテ來マ
ス、ドウシテモ利益ガ少クナツテ、此ノ米ヲ
作ラスト云フヤツヲ、作レト云フ規則モ、
法律モ、強制力モ今迄ナイノデアリマスカ
ラ、矢張リ警察ノ力ナリ官廳ノ力デ撰、
セテモ、農民ニ米ヲ作ラスヤウナ方法ヲ執
ラナケレバ、是ダケノ增産ハ出來ナイト思
フ、サウスルト又統治ノ上ニ、此ノ法案ヲ
布イタ爲ニ、ヨリ一層酷イ無理ガ行ハレテ
來ルンダ、ソレハ恐ラク泣クノ臺灣ノ農
民モ應ズルカモ知レマセヌ、ケレドモ其ノ
組織トシテ是認スルコトガ出來ルトシモ、
少クトモ戰時事變ノ際、斯ウ云フ食糧問題
ニ偉大ナモノダト思フ、之ヲ考ヘマスト、
私共ハ此ノ法案方縱ンバ平時ノ計畫經濟ノ
心理ニ及ス影響ノ重大ナルコトハ、是ハ實
ノ緊急ノ際ハ、鬼ニ角之ヲ控ヘテ置クベキ
モノダ、又來年ハドウ云フ風ニ增額ノ要求
ヲシ、内外地一體ノ米穀政策、食糧政策カ
ラ考ヘテ見レバ、來年度ニ又ドノ位殖エル
カモ知レナイ、サウ云フ矢先ニ、石二圓ツ
ツ頭ヲ剝ネテ行クンダト、斯ウ云フ政策ヲ
今御實行ニナラウト云フコトハ、如何ニモ
時代ノ認識ガナイモノト私ハ申上ゲナケレ
バナラヌノデアリマス、マサカ臺灣總督府
デ御宣傳ニナル譯デヤアルマイト思ヒマス
ケレドモ、此ノ移出米ノ管理法ト云フモノ
ハ、誠ニ劃期的ノ時代ニ即應シタツノ名
策デアル、又時局ヲ匡救スル爲ニ是レ位必要
ナモノハナインダ、之ニ反對ヲシニ異議ヲ
唱ヘル者ハ、時局ノ認識ガナイ非國民ダト
ケレドモ、併シ私共カヲ言ヘバ、是ダケ明
瞭ナル事實ナンデス、日本ガ今時局ノ際ニ
最モ大切ナル戰時食糧政策ト云フ根本カラ
言ヘバ、斯クノ如キ無理ナ無禁ナ法案ト云

フモノヲ今ヤルベキモノデヤナイ、是コソ
本當ニ、之ヲ無理押シヨウト云フコト
ハ、本當ニ戰時局ノ認識ガ足リナイ結果
作ラスト云フヤツヲ、作レト云フノデアリマスカラ
セテモ、農民ニ米ヲ作ラスヤウナ方法ヲ執
ラナケレバ、是ダケノ增産ハ出來ナイト思
ト私ハ思フノデアリマス、デアリマスカラ
ト私ハ思フノデアリマス、デアリマスカラ
ハ、本當ニ戰時局ノ認識ガ足リナイ結果
ハアルト、却テ逆ニ申上ゲナケレバ、ナラヌ
セテモ、若シソレデモ增産ヲヤルノダト
仰シヤルナラバ、必ズ統治ノ上ニ又非常ナ
無理ガ出來テ來ルト云フコトヲ考ヘナケレ
バナラヌノデアリマス、恐ルベキ事態デア
ルト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ
ラ拓務大臣ハ、一體其ノ點ニ付テドウ御考
ニナツテ居ルカ、必ズソレ等ノ協定ニモ増シ
テ増産ガ、此ノ法案ヲ布イテモ出來ルト御
考ニナツテ居ルカ、又ソレヲ無理ラシテヤレ
バ、統治上非常ナ障礙ヲ起シテ來ルコトヲ
私ハ豫想致シテ居リマスガ、其ノ點ニ對シ
テ如何ナル御意見ヲ御持チニナツテ居ルカ、
拓務大臣及農林大臣カラ一ツ御答撃ヲ得タ
イト思フノデアリマス、第三點ハ會計法上
ノ問題デアリマスガ、是ハ特別經濟ノ法案
ガ今上程ニナツテ居ル譯デアリマスガ、會計
法ノ第三十九條ニ依リマスト、「特別ノ須
要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ
特別會計ヲ設置スルコトヲ得、特別會計ヲ
設置スルハ法律ヲ以て之ヲ定ムヘシ」斯ウ
云フ規定ニ基キマシテ今此ノ法律案ガ上程
ヲサレテ居ル譯ト思フノデアリマス、ダカ
ラ普通經理ノ原則カラ申シマスルト、一般
會計ニ依ルベキモノデアリマスガ、特別ノ
須要ガアツテ此ノ本法ノ會計法ニ依リ難イ、
準據シ難イモノガアツタナラバ、特別會計ヲ
ト思フノデアリマス、マア今迄通例アリマ
ス例ヲ申上ゲマスレバ、各外地ノ特別會計
デアルトカ、或營造物ノ特別會計デアルト
カ、或ハ或事業ヲ遂行致シマス爲ノ事業特

別會計デアルトカ、或ハ何々資金ト稱スル
資金ノ特別會計ト云フモノデアルノデアリ
マス、是モ勿論臺灣ノ移出米ヲ管理スル爲
ニ特別會計ヲ作ルト云フノデアリマスカラ
ト私ハ思フノデアリマスカラ、ソレナラ、コンナコト
ニ依ッテ、若シソレデモ增産ヲヤルノダト
仰シヤルナラバ、必ズ統治ノ上ニ又非常ナ
無理ガ出來テ來ルト云フコトヲ考ヘナケレ
バナラヌノデアリマス、恐ルベキ事態デア
ルト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ
ラ拓務大臣ハ、一體其ノ點ニ付テドウ御考
ニナツテ居ルカ、必ズソレ等ノ協定ニモ増シ
テ増産ガ、此ノ法案ヲ布イテモ出來ルト御
考ニナツテ居ルカ、又ソレヲ無理ラシテヤレ
バ、統治上非常ナ障礙ヲ起シテ來ルコトヲ
私ハ豫想致シテ居リマスガ、其ノ點ニ對シ
テ如何ナル御意見ヲ御持チニナツテ居ルカ、
拓務大臣及農林大臣カラ一ツ御答撃ヲ得タ
イト思フノデアリマス、第三點ハ會計法上
ノ問題デアリマスガ、是ハ特別經濟ノ法案
ガ今上程ニナツテ居ル譯デアリマスガ、會計
法ノ第三十九條ニ依リマスト、「特別ノ須
要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ
特別會計ヲ設置スルコトヲ得、特別會計ヲ
設置スルハ法律ヲ以て之ヲ定ムヘシ」斯ウ
云フ規定ニ基キマシテ今此ノ法律案ガ上程
ヲサレテ居ル譯ト思フノデアリマス、ダカ
ラ普通經理ノ原則カラ申シマスルト、一般
會計ニ依ルベキモノデアリマスガ、特別ノ
須要ガアツテ此ノ本法ノ會計法ニ依リ難イ、
準據シ難イモノガアツタナラバ、特別會計ヲ
ト思フノデアリマス、マア今迄通例アリマ
ス例ヲ申上ゲマスレバ、各外地ノ特別會計
デアルトカ、或營造物ノ特別會計デアルト
カ、或ハ或事業ヲ遂行致シマス爲ノ事業特

別會計デアルトカ、或ハ何々資金ト稱スル
資金ノ特別會計ト云フモノデアルノデアリ
マス、是モ勿論臺灣ノ移出米ヲ管理スル爲
ニ特別會計ヲ作ルト云フノデアリマスカラ
ト私ハ思フノデアリマスカラ、ソレナラ、コンナコト
ニ依ッテ、若シソレデモ増産ヲヤルノダト
仰シヤルナラバ、必ズ統治ノ上ニ又非常ナ
無理ガ出來テ來ルト云フコトヲ考ヘナケレ
バナラヌノデアリマス、恐ルベキ事態デア
ルト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ
ラ拓務大臣ハ、一體其ノ點ニ付テドウ御考
ニナツテ居ルカ、必ズソレ等ノ協定ニモ増シ
テ増産ガ、此ノ法案ヲ布イテモ出來ルト御
考ニナツテ居ルカ、又ソレヲ無理ラシテヤレ
バ、統治上非常ナ障礙ヲ起シテ來ルコトヲ
私ハ豫想致シテ居リマスガ、其ノ點ニ對シ
テ如何ナル御意見ヲ御持チニナツテ居ルカ、
拓務大臣及農林大臣カラ一ツ御答撃ヲ得タ
イト思フノデアリマス、第三點ハ會計法上
ノ問題デアリマスガ、是ハ特別經濟ノ法案
ガ今上程ニナツテ居ル譯デアリマスガ、會計
法ノ第三十九條ニ依リマスト、「特別ノ須
要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ
特別會計ヲ設置スルコトヲ得、特別會計ヲ
設置スルハ法律ヲ以て之ヲ定ムヘシ」斯ウ
云フ規定ニ基キマシテ今此ノ法律案ガ上程
ヲサレテ居ル譯ト思フノデアリマス、ダカ
ラ普通經理ノ原則カラ申シマスルト、一般
會計ニ依ルベキモノデアリマスガ、特別ノ
須要ガアツテ此ノ本法ノ會計法ニ依リ難イ、
準據シ難イモノガアツタナラバ、特別會計ヲ
ト思フノデアリマス、マア今迄通例アリマ
ス例ヲ申上ゲマスレバ、各外地ノ特別會計
デアルトカ、或營造物ノ特別會計デアルト
カ、或ハ或事業ヲ遂行致シマス爲ノ事業特

增設ヲヤツタリ、治水、灌漑ヲヤツタリ、

カラ澤山ノ役人ヲ置キ、此ノ所カラドンドン
シ俸給ヲ御出シニナツテ、事務費ヲ出し、調
査費ト云フモノヲ出しシテ、サウシテ數百萬
圓ト云フモノヲ此ノ會計ノ中カラ取外シテ、
其ノアトノ純益ヲ還シテヤルノダト、斯ウ
云フヤウナ建前ニ此ノ會計ハ出來テ居ルノ
デアル、若シ總督府ガ言ハレルヤウニ、此
ノ出來タ差額ハ決シテ私スルノヂヤナイ、
農民ニ還元シテヤルノダ、斯ウ云フナラバ、
俸給トカ事務費トカ云フモノハ一般會計カ
ラ出シテ、此ノ特別會計カラ支出シナイコ
トニスベキコトガ當然デヤナカラウカト思
フノデアリマス、併シ提出サレテ居ル豫算
ヲ見マスルト、此ノ中カラ官吏ノ俸給ガ、
半箇年分デアリマスケレドモ、三十何萬圓、
或ハ調查費ガ四十何萬圓ト云フコトデ、莫
大ナル金ガ此ノ中カラ支出サレテ居ルノデ
アリマス、之ヲ半面カラ考ヘテ見マスト、
農民ノ側カラ考ヘテ、惡イトハ申シマセヌ
ケレドモ、本當ニ之ヲチヨット見タ時ニ、何
ダ、自分等ノ收入ノ頭ヲ別ネテ、ソレデ總
督府ハ澤山ノ官吏ヲ置イテ、澤山ノ俸給ヲ
ヤツテ居ルデハナイカト、斯ウ農民ガ此ノ特
別會計ヲ見テ言フテモ、是ハドウモ返ス言
葉ガナイ、辯明ノ言葉ガナイ、ダカラ農民
ニ還元スルノダト云フコトヲアレダケ公々
然ト御言ヒニナルナラバ、鬼ニ角此ノ特別
會計カラ官吏ノ俸給トカ、事務費トカ、調
査費ハ御取リニナラスヤウニ出來ナイカ、
若シ此ノ特別會計ヲ是認スルト致シテモ、
モウ少シ組立ノ方法ガアルノデハナイカ、
私ハ此處等ニモ本當ニ周到ナル注意ガ足リ
ナイ、外地ノ新附ノ同胞ヲ治メテ其ノ心ヲ
獲ヨウトスル政治ヲスルニハ、注意ガ足ラ
スト私ハ思フ、誰デモ考ヘル、俺等ノ頭ヲ
ハズジテ置イテ、ソレデ官吏ガ食ッテ居ルヂ
ヤナイカト云フコトヲ示ス、是ハ特別會計
ニナルノデアル、斯ウ云フ點モ本當ニ私ハ
考ヘテ戴キタイ、此ノ點ニ對シテ拓務大臣

ハドウ御考ニナツテ居ルノカ、此ノ點モ御答
辯ヲ得タイト思フノデアリマス、段々長ク
好イ、棉作ニ適シテ居ル、非常ニ好イ所デ
ト云フヤウナコトデアルノデアリマス、
云フヤウナ建前ニ此ノ會計ハ出來テ居ルノ
デアル、若シ總督府ガ言ハレルヤウニ、此
ノ出來タ差額ハ決シテ私スルノヂヤナイ、
農民ニ還元シテヤルノダ、斯ウ云フナラバ、
俸給トカ事務費トカ云フモノハ一般會計カ
ラ出シテ、此ノ特別會計カラ支出シナイコ
トニスベキコトガ當然デヤナカラウカト思
フノデアリマス、併シ提出サレテ居ル豫算
ヲ見マスルト、此ノ中カラ官吏ノ俸給ガ、
半箇年分デアリマスケレドモ、三十何萬圓、
或ハ調查費ガ四十何萬圓ト云フコトデ、莫
大ナル金ガ此ノ中カラ支出サレテ居ルノデ
アリマス、之ヲ半面カラ考ヘテ見マスト、
農民ノ側カラ考ヘテ、惡イトハ申シマセヌ
ケレドモ、本當ニ之ヲチヨット見タ時ニ、何
ダ、自分等ノ收入ノ頭ヲ別ネテ、ソレデ總
督府ハ澤山ノ官吏ヲ置イテ、澤山ノ俸給ヲ
ヤツテ居ルデハナイカト、斯ウ農民ガ此ノ特
別會計ヲ見テ言フテモ、是ハドウモ返ス言
葉ガナイ、辯明ノ言葉ガナイ、ダカラ農民
ニ還元スルノダト云フコトヲアレダケ公々
然ト御言ヒニナルナラバ、鬼ニ角此ノ特別
會計カラ官吏ノ俸給トカ、事務費トカ、調
査費ハ御取リニナラスヤウニ出來ナイカ、
若シ此ノ特別會計ヲ是認スルト致シテモ、
モウ少シ組立ノ方法ガアルノデハナイカ、
私ハ此處等ニモ本當ニ周到ナル注意ガ足リ
ナイ、外地ノ新附ノ同胞ヲ治メテ其ノ心ヲ
獲ヨウトスル政治ヲスルニハ、注意ガ足ラ
スト私ハ思フ、誰デモ考ヘル、俺等ノ頭ヲ
ハズジテ置イテ、ソレデ官吏ガ食ッテ居ルヂ
ヤナイカト云フコトヲ示ス、是ハ特別會計
ニナルノデアル、斯ウ云フ點モ本當ニ私ハ
考ヘテ戴キタイ、此ノ點ニ對シテ拓務大臣

ハドウ御考ニナツテ居ルノカ、此ノ點モ御答
辯ヲ得タイト思フノデアリマス、段々長ク
好イ、棉作ニ適シテ居ル、非常ニ好イ所デ
ト云フヤウナコトデアルノデアリマス、
云フヤウナ建前ニ此ノ會計ハ出來テ居ルノ
デアル、若シ總督府ガ言ハレルヤウニ、此
ノ出來タ差額ハ決シテ私スルノヂヤナイ、
農民ニ還元シテヤルノダ、斯ウ云フナラバ、
俸給トカ事務費トカ云フモノハ一般會計カ
ラ出シテ、此ノ特別會計カラ支出シナイコ
トニスベキコトガ當然デヤナカラウカト思
フノデアリマス、併シ提出サレテ居ル豫算
ヲ見マスルト、此ノ中カラ官吏ノ俸給ガ、
半箇年分デアリマスケレドモ、三十何萬圓、
或ハ調查費ガ四十何萬圓ト云フコトデ、莫
大ナル金ガ此ノ中カラ支出サレテ居ルノデ
アリマス、之ヲ半面カラ考ヘテ見マスト、
農民ノ側カラ考ヘテ、惡イトハ申シマセヌ
ケレドモ、本當ニ之ヲチヨット見タ時ニ、何
ダ、自分等ノ收入ノ頭ヲ別ネテ、ソレデ總
督府ハ澤山ノ官吏ヲ置イテ、澤山ノ俸給ヲ
ヤツテ居ルデハナイカト、斯ウ農民ガ此ノ特
別會計ヲ見テ言フテモ、是ハドウモ返ス言
葉ガナイ、辯明ノ言葉ガナイ、ダカラ農民
ニ還元スルノダト云フコトヲアレダケ公々
然ト御言ヒニナルナラバ、鬼ニ角此ノ特別
會計カラ官吏ノ俸給トカ、事務費トカ、調
査費ハ御取リニナラスヤウニ出來ナイカ、
若シ此ノ特別會計ヲ是認スルト致シテモ、
モウ少シ組立ノ方法ガアルノデハナイカ、
私ハ此處等ニモ本當ニ周到ナル注意ガ足リ
ナイ、外地ノ新附ノ同胞ヲ治メテ其ノ心ヲ
獲ヨウトスル政治ヲスルニハ、注意ガ足ラ
スト私ハ思フ、誰デモ考ヘル、俺等ノ頭ヲ
ハズジテ置イテ、ソレデ官吏ガ食ッテ居ルヂ
ヤナイカト云フコトヲ示ス、是ハ特別會計
ニナルノデアル、斯ウ云フ點モ本當ニ私ハ
考ヘテ戴キタイ、此ノ點ニ對シテ拓務大臣

ハドウ御考ニナツテ居ルノカ、此ノ點モ御答
辯ヲ得タイト思フノデアリマス、段々長ク
好イ、棉作ニ適シテ居ル、非常ニ好イ所デ
ト云フヤウナコトデアルノデアリマス、
云フヤウナ建前ニ此ノ會計ハ出來テ居ルノ
デアル、若シ總督府ガ言ハレルヤウニ、此
ノ出來タ差額ハ決シテ私スルノヂヤナイ、
農民ニ還元シテヤルノダ、斯ウ云フナラバ、
俸給トカ事務費トカ云フモノハ一般會計カ
ラ出シテ、此ノ特別會計カラ支出シナイコ
トニスベキコトガ當然デヤナカラウカト思
フノデアリマス、併シ提出サレテ居ル豫算
ヲ見マスルト、此ノ中カラ官吏ノ俸給ガ、
半箇年分デアリマスケレドモ、三十何萬圓、
或ハ調查費ガ四十何萬圓ト云フコトデ、莫
大ナル金ガ此ノ中カラ支出サレテ居ルノデ
アリマス、之ヲ半面カラ考ヘテ見マスト、
農民ノ側カラ考ヘテ、惡イトハ申シマセヌ
ケレドモ、本當ニ之ヲチヨット見タ時ニ、何
ダ、自分等ノ收入ノ頭ヲ別ネテ、ソレデ總
督府ハ澤山ノ官吏ヲ置イテ、澤山ノ俸給ヲ
ヤツテ居ルデハナイカト、斯ウ農民ガ此ノ特
別會計ヲ見テ言フテモ、是ハドウモ返ス言
葉ガナイ、辯明ノ言葉ガナイ、ダカラ農民
ニ還元スルノダト云フコトヲアレダケ公々
然ト御言ヒニナルナラバ、鬼ニ角此ノ特別
會計カラ官吏ノ俸給トカ、事務費トカ、調
査費ハ御取リニナラスヤウニ出來ナイカ、
若シ此ノ特別會計ヲ是認スルト致シテモ、
モウ少シ組立ノ方法ガアルノデハナイカ、
私ハ此處等ニモ本當ニ周到ナル注意ガ足リ
ナイ、外地ノ新附ノ同胞ヲ治メテ其ノ心ヲ
獲ヨウトスル政治ヲスルニハ、注意ガ足ラ
スト私ハ思フ、誰デモ考ヘル、俺等ノ頭ヲ
ハズジテ置イテ、ソレデ官吏ガ食ッテ居ルヂ
ヤナイカト云フコトヲ示ス、是ハ特別會計
ニナルノデアル、斯ウ云フ點モ本當ニ私ハ
考ヘテ戴キタイ、此ノ點ニ對シテ拓務大臣

ノ點ヲ承テ見タイト思フノデアリマス、御答辯ヲ得マシタ上デ、更ニ御質問ヲ申上ゲタイト思ヒマス(拍手)

ノ點ヲ承テ見タイト思フノデアリマス、御答辯ヲ得マシタ上デ、更ニ御質問ヲ申上ゲタイト思ヒマス(拍手)

國務大臣八田嘉門

明君演壇ニ登ル

○國務大臣(八田嘉明君) 丸山サンノ只今ノ御質問ニ對シマシテ、拓務省ト致シマシテノ見解ヲ申述ベタイト存ジマス、第一點ノ臺灣ニ於ケル所ノ米穀移出管埋案ガ臺灣ノ律令ニ依ツテ發布サレル場合ニ於テ、之ガ統治ニ影響スル所ノモノガ相當アルデアラウ、之ニ付テハドウ云フ風ニ考ヘルカト云フ點デ縷々御質問ガアツタノデアリマス、仰セノ如ク外地ニ於ケル所ノ統治ノ重要性ハ、極メテ重要デアリマスコトハ申ス迄モナイコトデアリマス、歷代ノ總督ガ臺灣ニ於カレマシテ十分ナル御盡力ヲ致サレタコトハ、我々ガ感謝ヲシナケレバナラヌコトデアルト存ズルノデアリマス、今回臺灣總督府ニ於キマシテ、本管埋案ヲ立案セラレルニ當リマシテモ、勿論統治ノ上ニ於ケル所ノ其ノ影響ニ付キマシテハ、深甚ナル考慮ヲ拂ハレタモノデアルト固ク信ズルノデアリマス、併シナガラ内地デアリマシテモ、外地デアリマシテモ、苟モ新シキ法案ヲ茲ニ設定致シマシテ、過去ノ事情ト其ノ後ノ法案ニ依リ變リマスル所ノ其ノ點ニ付キマシテハ、勿論内地ト雖モ、外地ト雖モ、之ガ及ス所ノ影響、而シテソコニ惡影響ガアルニ害ノアルヤウナコトハ避ケナケレバナラバソレニ對シマシテ十分ナル考慮ヲ事前ニ於テ行ヒ、更ニ又實際ノ運用ニ於テモ最善ノ力ヲ致シマシテ、苟モ人人心ヲ安定スルニ只今申上ゲマシタル見地カラ見マシテ、内地外地一體ニ、精神的融和ト云フコトニ付キマシテ只今御述ニナリマシタコトニ付テハ、全ク御同感デアルノデアリマス、本案ハ十分只今申上ゲマシタル見地カラ見マシテ、内ノデアリマス、御指摘ニナリマシタ其ノ統

治上ニ及ス影響ノ理由トシテ、第一點ハ農家ノ收入減ト云フコトデアルヤウニ思フノデアリマス、第二點ハ是ハ特ニ御述ニハナリマセヌガ、其ノ御心持ノ中ニハ、是ガ農民ニ、此ノ法案ガ如何ナル效果ヲ齎シ、如何ナル影響ガアルカト云フコトヲ、此ノ法案ノ決定セラレル以前ニ於キマシテハ、往々ニシテ其ノ真相ヲ掘ムコトガ出来ナイ場合ガ多々アルト思フノデアリマス、サウ云フ場合ニ於ケル所ノ注意ヲ無論シナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、何レニ致シマシテモ此ノ統治上ニ影響ガアリハヌカト云フ其ノ主ナル點ハ、農家の收入減ト云フコトヲ中心トシテ御指摘ニナツタト存ズルノデアリマス、デ此ノ點ニ付キマシテハ御詰ノ如ク、最初此ノ管理案ニ依リマシテ、例へバ一石二圓以内ノ收入ノ減ト云フヤウナコトノ極ク短イ時間デアリマシテ、此ノ管理案方計算上アリ得ルノデアリマス、併シ是モ度々豫算總會等ニ於キマシテ、御答ヘ申上ゲタコトガアツタノデアリマスガ、ソレハ最初モノニ及ブノデハナイノデアリマス、假ニ收ト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、只今ニ依リマシテ、農作物ノ收益ガ上ヲテ參リマスノデ、農家の收入ハ絶対ニ下ガルノデハナイノデアリマス、只今一戸五十圓位ノ減額ト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、只今管理セムトスル所ノ米ハ、内地移出ニ適スル所ノ蓬萊米デアリマスルノデ、其ノ他ノモノニ及ブノデハナイノデアリマス、假ニ二圓減ノコトガアリマシテモ、此ノ特別會計法ニ依リマシテ得マシタ所ノ其ノ收入ハ、純益ハ之ヲ擧ゲテ農作ノ改善ニ充テルノデアリマス、而シテ其ノ經費ハ只今御述ニナリマシタルノハ、此ノ十四年度ノ豫算デアリマス、十四年度ハ此ノ本案ガ執行サレマスニ當リマシテモ、第二期米作カラ始マリマスノデ、極メテ最初ノ年ハ操業費ガ割合ニ掛カリマスルノニ、收入ガ少イノデアリマスルカラ、只今御述ニナツタヤウナ點ガアルカト思フノデアリマスルケレドモ、平

年ニ於キマシテハ、恐ラク七百萬或ハソレ
以上ニナリマスカ、兎ニ角其ノ年ニ依テ
違ヒマセウガ、其ノ位ナ利益ハアルノア
リマス、從ヒマシテ其ノ外ニ臺灣ノ特別會
計デアリマスガ、其ノ臺灣總督府ノ全特別
會計、其ノ中カラ一般的農業ノ振興費、產
業ノ助長費ト云フモノガ相當計上サレテ居
リマスルガ、ソレニ加フルノニ此ノ管理案
ニ依ツテ得タル所ノ特別ノ益金ハ、之ヲ擧げ
テ全部ソレニ加へマシテ、臺灣總督府ノ全
特別會計ニ一旦計上致シマシテ、サウシテ
ソレガ支出サレルコトニナッテ居ルノアリ
マス、此ノ特別會計カラ直グ出ルノデハナ
イノデアリマス、斯様ナ次第デアリマシテ、
其ノ利益金ガ若シ農家カラ、假令ソレガ僅
カデアリマシテモ、其ノ收入ヲ臺灣ノ他ノ
項目ノ經費ニ持ツテ行クトカ、或ハ内地ニ
持ツテ行クトカ云フコトデアリマスレバ、是
ガ御話ノ如ク農家ノ收入ヲ頭ヲ叩イタト云
フヤウナ今御言葉デアリマシタガ、サウ云
フコトニモナルト思ヒマス、併シナガラ是
ハ全然違フノデアリマシテ、何處ニモ其ノ
收入ガ行クノデハナイノデアリマス、從ヒ
マシテソコニ特別會計ヲ設定セラレタ理由
ガ、唯法規的ノ特別會計ト云フコトニシタ
ト云フ以外ニ、大事ナ點ガアルト私ハ考ヘ
ルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマシテ、
其ノ収益ハ舉ゲテ農家ノ現在及將來ニ瓦リ
マシテ投下セラレルノデアリマスルカラ、
サウシテ米作ニ付キマシテモ御承知ノ如ク
決シテ其ノ農地ガ減ル譯デモアリマセヌ、
又今日迄ハ内地ト外地トノ米ノ問題ニ付テ
御話ガアリマシタガ、過去ニ於キマシテハ
兎角外地ノ米ト云フモノヲ、米作ト云フモ
ノヲ抑へ氣味デアッタノデアリマス、臺灣ニ
於キマシテモ今日迄ハ水利ノ改善、改良、
或ハ土地ノ新シキ開拓ト云フモノハ是ガ禁
止サレテ居ルノデアリマス、内地トノ關係
ニ於テ禁止サレテ居ツタノデアリマスルガ、

此ノ法案ノ施行ト共ニソレヲ解除致シマジテ、サウシテ其ノ利益金ヲ擧ゲテ農地ノ改善、是ノ新シキ開拓、並ニ只今御詫ノアリマシタ臺灣デハ屢々參リマスル所ノ此ノ風害ノ爲ニ、可ナリ大キナ損害ガ米作ノ上ニアルノデアリマス、ソレ等ノ如キニ付キマシテモ、十分恒久的對策ヲ講ジテ行カウト云フノデアリマスルカラ、之ヲ終局的ニ見マシテ、決シテ農民ニ對シマシテ收入減トナルト云フコトデハナイコトヲ御承知願ヒタイト思フノデアリマス、此ノ買上價段ガ生產費ニ或經費ヲ加ヘマシテ、買上價格ト云フコトニナツテ居リマスルカラ、如何ナル場合ニ於テモ農民ノ生產費ニ加フルニ或率ガ加シテ居ルノデアリマス、御承知ノ如ク内地ニ於ケル所ノ米ノ値段ト云フモノハ、數年以前カラ或ハ米穀法或ハ米穀統制法等ニ依リマシテ、相當ノ間ニ統制セラレテ居ルノデアリマス、此ノ内地ニ於ケル所ノ米ノ統制ト云フモノガ、臺灣ニ影響致シマシテ、其ノ移出米ニ關スル限りハ内地ノ米價ト同ジモノデ賣ラレテ居ルノデアリマス、從ヒマシテ年ニ二回ノ作ガアリ、天然ノ熱ト光トヲ非常ニ持シテ居リマスル所ノ臺灣ノ米作ニ於ケル所ノ生產費ト、内地ニ於ケル生產費ト、ソレガ同ジ米價デ賣ラレルト云フコトニナリマスレバ、ドウ考へマシテモ其ノ間ニ相當ノ利潤ノ差ガアルト云フコトハ是ハ疑ナイ事實デアルノデアリマス、多少ソコニ買上値段ヲ下げマシテモ決シテソレハ生產費ヲ割ルモノデハ絶対ニナイノデアリマシテ、又内地ノ農業者ニ比較致シマシテ、決シテ臺灣ノ農民ガ收入減ヲ生ジ、特別ナル不便ヲ來スト云フヤウナコトハ絶対ニナイト云フコトハ數字的ニ明カデアルノデアリマス、要スルニ此ノ法案ニ依シテ決シテ農家ノ收入ヲ減少スルモノデハナイ、而モ國家ニ必要デアリマス所ノ他ノ重要農產物ヲ是ト併用致シマシテ農家の作付テ參リマスノ

的ニ而モ將來ニ向ッテ段々ト農民ノ福利ハ増進シテ、農業ノ開發ハ其ノ地ノ利ニ從ヒマシテ、最モ有效適切ニ開發サレルモノト信ズルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマシテ、此ノ點カラハ農民ノ壓迫トカ、積極的收入減ニハナラヌノデアリマスノデ、アリマスルト思ヒマスノハ、昨年此ノ米穀管御指摘ニナリマシタル統治上ニ影響スルト云フコトハナイト考ヘルノデアリマス、唯御心配ニナリマスル所ノ點ハ御尤ノ點ガアリマスルト思ヒマスノハ、昨年此ノ米穀管理案ガ臺灣重要產業ノ調査委員會ニ於テ決定スル以前ニ於キマシテハ、如何ナル法案ガ出ルカト云フコトハ未定デアリマスルノデ、其ノ以前ニ於テ島ノ内外ニ於テ色々ノ臆測等モアツタ考ヘルノデアリマス、或ハ此ノ法案ノ運用ニ依リマシテ注意ヲ致サンケレバナラヌコトモ勿論デアリマス、是等ノ點ニ付キマシテモ後ニ於キマシテ十分ナ注意ヲ運用上ニ拂フコトガ最モ大切ナコトデアルコトハ、只今御述ニナリマシタル御趣旨ノ通り、ウシテ一方ニ於テハ是ガ愈、實施ノ曉ニ於キマシテハ、臺灣總督府ニ於テ十分ナ注意ヲ運用上ニ拂フコトガ最モ大切ナコトデアルコトハ、只今御述ニナリマシタル御趣旨ノ通り、リデアルト存ズルモノデアリマス、要スルニ此ノ管理案ハ御述ニナリマシタル通り、臺灣ニ於ケル移出米ノ米價ノ適正ヲ圖り、他ノ時局産業ニ必要ナル農產物ノ調和發展ヲ圖リ、又農家經濟ノ恒久的安定ヲ圖ルトシタイト思ヒマス、第二點ノ食糧問題トノ云フコトニアリマスルノデ、此ノ點ハ決シテ結治上ニ害ガアルコトハナイト云フコトヲ重ねテ申上げマシテ、第一點ノ御答ト致シタイト思ヒマス、農林省ニ於ケル所ノ計畫ニ順應致シマシテ、外地ニ於ケル所ノ米穀ノ需給關係ニ付テ、ハ御調查ニナリ、御計畫ヲ立テ居ラレルノデアリマスガ、外地ニ於キマシテハ此ノ農林省ニ於ケル所ノ計畫ニ順應致シマシテ、外地ニ於ケル所ノ持分ヲ實行致スヤウニ努メテ居ル次第デアルノデアリマス、今回豫算ニ關係ノアリマスル所ノ十四年度ノ、所謂十五米穀

年度ニ於キマシテハ、臺灣ニ於キマシテ二十七萬石バカリノ増産ヲ計上致シテ居ルノデアリマスガ、是ハ昨年ノ計畫デアリマスシテ、約五十萬石ノ増産ヲ臺灣總督府ニ事務的交渉ガアリマシテ、只今ソレガ計畫ニ付テ打合ヲ致シテ居ルヤウナ次第デアルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマシテ、本案ニ依リマシテ決シテ減產ニナルコトハナイノデアリマス、而モ土地柄ト致シマシテ或彈性力ヲ持ッテ居ルト云フコトモ申上げタル迄モナイノデアリマス、唯異常ナルコトガ起リマシタ時ニ、臺灣ダケデはハドウニモスルコトガ出來ナイコトハ申上ゲル迄モナイト思フノデアリマス、本案ニ依リマシテモ、十箇年間ニ二百數十萬石ノ増産ト云フ計畫ニ、數字上ハナツテ居ルノデアリマス、併シナガラ本年度ノ如キハ只今申上ゲマシタ通り、臨機ノ増産ヲ之ニ加ヘルコトニ相成ツテ居リマス、又年ニ依ッテハ内地ガ相當増産ガアリ、臺灣ガ抑ヘラレル場合モアルト思フノデアリマス、何レニ致シマシテモ、農林省ノ内外米穀需給對策緊密ナル連絡ヲ執リマシニ、遺憾ナカラシメルヤウニ考ヘテ居リマスノデ、米穀ノ點カラ我ガ國ノ食糧問題ニ、本案ガ決シテ障碍ヲ來スコトハナイト思フノデアリマス、即チモノ法案アルコトは依ツテ、内外地ノ米穀需給對策ノ上ニ、臺灣ガ不都合ヲ生ズルト云フコトハナインデアルト云フコトヲ、御了承願ヒタイト思フノデアリマス。

策ニ對シテ支障ヲ來スヤウナコトハナイ
カ、殊ニ今日増産計畫ヲ致サナケレバナラ
又場合ニ、一番容易ニ増産シ得ル臺灣ニ於
テ、其ノ増產ヲ見ルコトノ出來ナイヤウナ
本案ニ對シテ、ドウ考ヘテ居ルカト云フ、風
ナ御趣意デアツタヤウニ拜承スルノデアリ
マス、若シ間違テ居リマシタナラバ更ニ承
リマシテ御答辯ヲ申上ゲタイト思ヒマス、
御承知ノ如ク今日日本ノ農村ガ非常ニ窮境
ニアリマシテ、即チ勞力ノ點ニ於テモ、或
ハ馬匹ノ關係ニ於テモ、肥料ノ出廻リノ點
ニ於テモ困難ナ事情ニアリマスノデ、從來
ノ如キ米ノ收穫ヲ得マス爲ニハ、相當ノ
努力ヲ要スルコトハ固ヨリデアリマス、從
ヒマシテ其ノ増產ノ計畫ト云フモノニ付キ
マシテハ、深ク注意ヲ拂ハナケレバナラ又
コトハ言フ迄モザイマセヌ、御承知ノ如
ク日本ニ於ケル現在ノ米穀ニ需給ノ狀態ハ、
内地ト外地トヲ一貫シテ、之ニ依テ丁度需
要ト生産トガ相對シテ居ルノデアリマス、
即チ日本内地ニ於テ六千五六百萬石、朝鮮
ニ於テ二千三百四十萬石、臺灣ニ於テ九百五十
萬石内外、斯様ナ數字デアルノデアリマス、
從ツテ將來ニ於ケル所ノ米穀政策ヲ立テマス
ノ點ニ付キマシテハ深甚ナル注意ヲ拂ツテ
居ルノデアリマス、本年度ノ計畫ニ於キマ
シテモ、大體ニ於テ昨年來農林省ニ於テ種
種計畫ヲ立テマシテ、大凡其ノ數字ノ數量
ヲ得ラレル計畫ヲ立テ居ルノデアリマス
ケレドモ、此ノ戰時態勢ニナリマシタ結果
米ノ消費ガ增加致シテ參リマシテ、約二百
萬石内外、平生ノ増加率ヨリモ殲エテ消費
致スヤウニナツタノデアリマス、從ヒマシテ
之ヲ基準ト致シマシテ、更ニ萬一ノ不作ノ
アツタ場合ニ、不作ニ對應致サナケレバナラ
又關係上、改メテ又今日增產計畫ヲ立テマ
シテ、當初ノ内地三百萬石ノ計畫ヲ四百萬
石ニ殖シ、又朝鮮ニ於テハ曩ニ七十萬石ノ

増産ヲ頼ンデ置キマシタケレドモ、更ニ十萬石ノ増産ヲ願ヒ、臺灣ニ對シテモ亦五十萬石ノ増産ヲ御願ヒシタヤウナ譯デアリマス、即チ萬全ヲ期スル爲ニソレダケノ準備ヲ致シテ、之ヲ目標トシテ最善ノ注意ヲ拂ツテ、サウシテ生産ヲ確保致シタイ、斯様ニ今計畫ヲ致シテ居ルノデアリマス、此ノ際ニ於テ臺灣ハ容易ニ増産ガ出來ルノダカラ、モット臺灣ニ増産ヲシクラドウデアラウカ、斯ウ云フ御議論ガ出ルト思ヒマスガ、今日ノ時代ニ於キマシテハ、出來ルダケ多クノ増産ヲ致サナケレバナラヌノデアリマスケレドモ、數年以前ニハ米ガ有リ餘ツテ、其ノ爲ニ内地ニ於テスマラ減反ヲシヨウト云フ風ナ意見ガ起リマシタ、今拓務大臣モ御話ニナリマシタガ、臺灣ノ增産モ停メテ貴ハナケレバナラヌ、朝鮮ノ增産モ停メテ貴ハナケレバナラスト云フ風ナ事態モアツタノデアリマス、故ニ將來ノ内地農村ノ立場カラ申シマスト云フト、外地ニ於テ非常ナル増産ガ急ニ出來タト致シマスト云フト、ソレガドウ影響ヲ及スカト云フコトニ付キマシテモ、可ナリ考ヘナケレバナリマセヌ、出征シタル將士ガ歸ツテ來テ農村ノ事業ニ從事スル時ニ、其ノ從事シテ得タル農產物ニドウ云フ影響ヲ及スカト云フコトモ亦考ヘテ見ナケレバナリマセヌ、故ニ内地外地ヲ一貫シタル所ノ將來ニ瓦ル米穀政策ヲ確立致シテ、之ヲ基準トシテ、此ノ米穀ノ生産ニ當ルト云フ事柄ガ一番適當デアルト考スウナリマシタ既ニ於テハ、滿洲及支那ニ於ケル所ノ米ノ生産ノ問題モ考ヘテ見ナケレバナリマセヌ、滿洲ニ於テハドウ云フ生産費ニ依シテ生産ガ出來ルカ、北支ニ於テハドウデアルカ、其ノ量ハドウデアルカ、此ノ問題ハ現在企畫院ニ於キマシテモ考慮ニ於ケル所ノ米ノ生産ノ問題モ考ヘテ見ナケレバナリマセヌ、滿洲ニ於テハドウ云フ生産費ニ依シテ生産ガ出來ルカ、北支ニ於テ支ノ問題モ深ク考ヘナケレバナリマセヌ、此ノ問題ハ現在トシテハ、内地ニ於テ

出來ルダケノ增産計畫ヲ立テ、而シテ已ムヲ得ザル部分ニ付テ朝鮮及臺灣ノ協力ヲ得タイト考ヘテ居ルノデアリマス、殊ニ況ヤ臺灣ハ御承知ノ通リニ毛作デアリマシテ、伸縮性ヲ持ツテ居リマスノデ、萬一此ノ春ノ狀況、天候其ノ他ノ關係デ收穫高ガ少イト云フヤウナ豫想ノ場合ニ於キマシテハ、是ハ臺灣ノ如ク速カニ米穀ノ生産ニ向ケ得ベキ所ノ土地ニ御依頼ヲシテ增産ヲ圖ッテ戴カナケレバナラスト思ツテ居リマス、故ニ此ノ點ニ付キマシテハ、常ニ内地ト外地トヲ一貫シテ、此ノ米穀政策ト云フモノヲ立て參ツテ居ルノデアリマシテ、本案ノ施行ニ依ツテ私ハ臺灣ニ於ケル所ノ米ノ收穫が減ルモノトハ考ヘテ居リマセヌガ、臺灣總督府ノ當局ト常ニ密接ナ關係ヲ以チマシテ、若シ内地ニ於キマシテドウシテモ更ニ增産ノ必要ノアル場合ニ於テハ増産ヲシテ戴クト云フ諒解ヲ持ツテ居ルノデアリマシテ、現ニ只今申上げマシタ通り、五十萬石ノ增産ヲ今計畫シテ御願ヒシテ居ルヤウナ譯デアリマシテ、此ノ點ニ付テハ、日本ノ現在ノ米穀政策ト云フコトニ付キマシテハ、先づ大體ニ於テ私ハ心配ナイ狀況デアルト云フコトヲ御答へ致シタイト思ヒマス。

〔政府委員松村光三君演壇ニ登ル〕
○政府委員(松村光三君) 只今本案ニ依ル特別會計設置ノ理由其ノ他ニ付キマシテ御尋ガゴザイマシタガ、本案ハ先程提案ノ理由ノ際御説明申上げマシク通リニ、臺灣總督府デ臺灣米ヲ内地ニ移出スル目的ノ爲ニ管理シ、之ヲ買ヒ入レル、加工シテ一定ノ期間貯藏シテ、之ヲ適宜内地ニ賣リ渡シ移出スル或期間ノ間ノ、管理ノ趣旨ヲ持テ居リマスガ、其ノ特殊ナル業務、或意味ニ於キマスル特殊ナル經濟行爲ヲミマスルノデ、是ハ米穀ニ關シマスル一般行政事務トハ自ラ性質ノ異ルモノガアルト考ヘマス、從ツテ之ヲ一般會計カラ區別シテ其ノ會計經理ヲ處理スルコトガ、最も妥當ダト考ヘマシタコトガ第一ノ理由デ

アリマス、第一ノ理由ニ付キマシテハ、先程拓務大臣ガ既ニ御答ヘ申上ゲマシタ通りニ、此ノ法案ニ依ツテ多額ナル收益、多額ナル純益ヲ目的ト致シテ居ルノデハアリマセバナラスト考ヘテ居ル次第アリマス、ソヌガ、若シ相當ナル純益ヲ生ジタル場合ニ於キマシテハ、其ノ純益ハ先程拓務大臣ノ御答ヘ申シマシタ通り、臺灣内地ニ於ケル所ノ農作其ノ他ノ特殊ナル目的ニ之ヲ使用スルト云フ第二ノ理由モアリマスルノデ、是等ノ理由ト相倚リ相俟チマシテ、特ニ特別會計ヲ設置シタ次第アリマス、尙人件費其ノ他ハ一般會計カラ支出スル方ガ妥當デハナイカト云フ御尋デアリマシタガ、出來ルナラバソレモ致シタイノデアリマスルケレドモ、サナキダニ一般會計方益、膨脹ノ傾向ニアリマスル今日ニ於キマシテハ、外國カラノ輸入ヲ抑制スル效果モアル次第出来得ル限り一般會計ノ膨脹ヲ避ケタイトモ考ヘマシテ、特別會計ノ趣旨ト收支ヲ關係ヲ明確ナラシメ、且徹底セシムル考カラ、解ヲ御願ヒ申上げマス。

〔政府委員青木一男君演壇ニ登ル〕
○政府委員(青木一男君) 丸山サントノ御質問ノ中、企畫院ニ關スル分ニ付テ御答ヘ申上ゲマス、御質問ノ趣旨ハ、今後ノ我が國ノ經濟政策ハ、日滿支ヲ通ズル大ギナ計畫ヲ基礎トスペキモノデアルガ、企畫院ガ現ニサウ云フコトヲヤッテ居ルカト云フ點ト、若シサウ云フ計畫ガアルナラバ、臺灣ノ今同ノ如キ計畫モ之ヲ待ツテ、其ノ一部トシテ考ヘテ宜シクハナイカト云フ御趣旨ニ拜承トガ原因ノヤウデアリマス、仍テ將來支那事務トハ自ラ性質ノ異ルモノガアルト考ヘマス、從ツテ之ヲ一般會計カラ區別シテ其ノ會計經理ヲ處理スルコトガ、最も妥當ダト考ヘマシタコトガ第一ノ理由デ

アリマス、〔政府委員柳川平助君演壇ニ登ル〕
○政府委員(柳川平助君) 興亞院關係ノ事項ニ付テ御答ヘ致シマス、東亞新秩序建設ノ上カラ、特ニ時局上生活必需品タル農產物增産ノ必要ナルコトハ御說ノ通リデアリマシテ、日滿支三國互効連環ノ經濟ヲ確立スル上ニ於キマシテ、此ノ農產經濟ノ自給自足ニナルヤウニスルコトガ必要デアルト云フコトニナシタ、此ノ七十七萬石ト云フノハ蓬萊米デアツテ、内地デ消費シ得ル米デアリマス、臺灣ハ七十七萬石ヲ增産シナケレバナラヌ更ニ今ノ情勢デ五十萬石ヲ臺灣ニ賴シダ、臺灣ノ地理案デ立ツテ居ラレル御觸レニナラナカッタ、斯ウ云フコトモ色々ナ微妙ナ影響ガアルト私ハ考ヘルノデアリマシタカラ、更ニ此ノ問題ニ付テ追究ヲシテ御伺ヒスルコトハ今日之ヲ止メマシテ、其ノ他ノ機會ニ於キマシテ、本當ニ納得ノ行クヤウニ御指示ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、拓務大臣ハ遂ニ糖業ノ問題ニハ一言モウニ致スコトガ宜シイト考ヘテ居ル次第アリマス。

〔政府委員青木一男君演壇ニ登ル〕
○政府委員(青木一男君) 丸山サントノ御質問ノ中、企畫院ニ關スル分ニ付テ御答ヘ申上ゲマス、御質問ノ趣旨ハ、今後ノ我が國ノ經濟政策ハ、日滿支ヲ通ズル大ギナ計畫ヲ基礎トスペキモノデアルガ、企畫院ガ現ニサウ云フコトヲヤッテ居ルカト云フ點ト、若シサウ云フ計畫ガアルナラバ、臺灣ノ今同ノ如キ計畫モ之ヲ待ツテ、其ノ一部トシテ考ヘテ宜シクハナイカト云フ御趣旨ニ拜承トガ原因ノヤウデアリマス、仍テ將來支那事務トハ自ラ性質ノ異ルモノガアルト考ヘマス、從ツテ之ヲ一般會計カラ區別シテ其ノ會計經理ヲ處理スルコトガ、最も妥當ダト考ヘマシタコトガ第一ノ理由デ

ニ於テ、眞劍ニ考ヘテ戴キタイト思フノデ
ス、色々申上ゲタイト思ツテ材料ハ持ツテ居
リマスケレドモ、時間モゴザイマセヌシ、
皆サンニモ御迷惑ト思ヒマスカラ申上ゲマ
セヌ、唯最後ニ一ツダケ申上ゲタイト思ヒ
モノデアリマス、恐ラク是ハ皆サンノ手許
ニ行ツテ居ルト思ヒマスケレドモ、御氣付キ
ニナラズニ御イデニナル方ガ多イト思フ、
現ニ私モ其ノ一人デアリマス、斯ウ云フ本
ガ參ツテ封ヲ切ツテ見マシタラ、長期建設ト
農業政策ト云フコトデアリマス、議會デモ
終ツタラ悠々クリ讀マウト思ツテ取ツテ置イタ
ノデアリマス、人ノ注意ヲ受ケテサウシテ
拜見シマスト、此ノ本ノ中ニ、百九頁カラ
二百二十二頁迄百三頁ニ亘ツテ、臺灣ノ移出
米管理ニ關スル評論ガシテアルノデアリマ
ス、實ニ極メ冷靜ニ、正確ナル材料ニ基
イテ、研究的態度デ、有ラユル角度カラ、
此ノ臺灣米移出管理ニ關スルコトガ評論シ
テアルノデアリマス、是ガ何故ソンナ突然
ナル形デ皆サンノ手ニ届イテ居ルカ、私自
身モ氣ガ付カナカツタノデアリマスガ、此ノ
本ハ一月ニ出來タ本デアリマス、而モ内地デ
アリマス、是ニハ初メ農林次官小平君ノ序
文ガ載ツテ居ツタノデアリマス、其ノ序文ハ
官憲ノ力ニ依ツテ遂ニ削除サレタノデアリマ
ス、ソレデアリマスカラ、其ノ序文ノ原案ヲ見マス
ト、此ノ本ハ戦時食糧政策ニ取ツテハ極メ
ニ來タ時ニハ斯ウ云フ風ニ黒イ筋デ消シ
テアリマス、其ノ序文ハ如何ナル譯デ除カ
レタノデアルカ、其ノ序文ノ原案ヲ見マス
ト、此ノ本ハ戦時食糧政策ニ取ツテハ極メ
テ参考トナル本デアル、立派ナ本デアルト
書イテアルダケデアリマス、其ノ農林次官
ノ小平君ノ序文ハ削除ヲ命ぜラレテ削除シ
タモノデアリマス、折角此ノ臺灣ノ管理米
ノ問題ニ付テ、貴族院或ハ衆議院ノ諸公ニ

考へテ戴カウト思ッテ之ヲ贈ッタ、此ノ中ニハ其ノコトガ書イテアルカラ、ドウカ参考ノ爲ニ讀ンデ吳レト云フ手紙ヲ附ケテ送ルマスカラ封筒ニ入ッテ是ガ唯皆サンノ處ニ行ッテ居ルノデス、今日迄皆サン御氣付ニナラヌ方ガ御アリニナルト思フ、此ノ點ニ付キマシテハ同僚ノ次田君ガ、豫算委員會デ内務大臣ニ、如何ナル理由デ序文ノ削除ヲ命ジタカ、如何ナル理由デ其ノ手紙ヲ押收シタカ、其ノコトノ質問ガアリマシタノデアリマスガ、御答ヲ得テ御イデニナルカドウカ、私ハマダ存ジマセヌ、抑ソソンナ難局ヲ經テ此ノ本ハ私共ノ手ニ入ツテ居ル、之ヲ御讀ミ下サイマスト、臺灣米穀管理案ノ全貌が能ク分ルノデアリマス、其ノ最後ニ斯ウ言ツテ居リマス、今迄百二貢ニ亘ツテ有ラユル角度カラ之ヲ論評シマシテ、最後ニ「併シ如何ニ根據ガ薄弱デアッテモ、臺灣現地ニ於テ反對論ガ表ニ現ハレズ、又反對的運動ガ許サレナイ以上、臺灣總督府ノ押シノ一手デ議會ヲ通過スルカモ知レナイ、併シナガラ凡ソ無理ノアル政治ト云フモノハ、一時ヲ彌縫スルコトガ出來テモ、何時カハ其ノ無理ガ表面ニ現ハレ、破綻ヲ來スモノデアルコトヲ銘記スペキデアル、今ヤ我國ハ前古未會有ノ非常時局ニ遭遇シ、國內ニ於テハ國民ノ一致結束、對外的ニハ戦ノ目的闡明ニ努力シツツアリ、大陸支那ニ向ツテ長期建設、支那民族ノ解放ニ聖ナル巨歩ヲ踏ミ出シツツアル、而シテ東洋盟主トシテ「アジャ」數億ノ民衆ノ上ニ指導誘掖ノ地位ニ立タサレテ居ルノデアル、其ノ氣宇大ニシテ、慈愛ノ心ナクンバ、到底ソレ等ノ民衆ヲ悦服セシムルコトガ出來ナイ、新附ノ民衆臺灣ノ同胞カ、其ノ生命線ト賴ム米穀ヲ管理シヨウトシタナラバ、彼等ノ意見ヲ十分ニ訊クガ宜シイ、米ハ彼等ガ生活ノ本據デアル、其ノ本據ヲ根本的ニ改革シヨウト云

ノニ、農家ノ意見ヲ封ズルガ如キコトガアレバ、決シテ明朗ナ政治ヲ行フ所以デハナイ、若シ本法案が眞ニ臺灣大衆ノ幸福ノ爲忠實ニ立案サレタモノデアレバ、堂々ト其ノ意見ヲ戦ハシメ、其ノ意見ニシテ誤解ニ属スルモノガアルノデアリマス、解明ニ努力スベキデハナカラウカ」、是ガ百三頁ノ論文ノ結論デアリマス、實ニ僥々トシテ懇フルガ如キモノガアルノデアリマス、先程モ摺務大臣ノ御話ノヤウニ、昭和十二年カラ此ノ問題ヲ考慮シテ御イデニナリナガラ、臺灣ニ於テハ此ノ移出米、或ハ米專賣等ニ關スル一切ノ新聞記事ヲ禁止サレテシマツチ居ルノデアリマス、委員會ガ濟ンデカラ新聞ニ書クコトノ解除ハサレタト云フコトデアリマスケレドモ、臺灣ノ新聞ノ取締ノコトハ、今更私ハ此處デ申上ゲマセヌケレドモ、事實何等ノ聲ヲ發スルコトガ出来ナイヤウニシテアルノデス、此ノ鬱積シタ心持ガ一體何處へドウ云フ形デ現レテ來ルコトガアルカモノ知レヌト云フコトハ、本當ニ我々ハ憂慮ヲシナケレバナラヌノデアリマス、私ハ最近外地統治ノ傾向ニ付テモ、憂慮スペキ幾多ノモノヲ持ツテ居リマス、一々斯ウ云フ風ナ公開ノ席デ私ハ申上ゲルコトヲ控ヘルノデアリマスケレドモ、本當ニ我々ガ新東亞ノ建設ト云フ大業ニ向ツテ居ルノダ、ケチナ小細工ヲヤッタリ、小手調べヲヤルヤウナコトデハ、我々大和民族ガ本當ニ此ノ使命ヲ達成スルコトハ出來ナイingga、四十何年モ兎ニ角我ガ國ノ領有トナリ、陛下ノ赤子トナツタ人間達ニ、コンナ心持テ何時迄モ扱ツテ居ツテ、一體本當ニ心ト心トノ融合ガ出來ルカドウカト云フコトニ付キマシテハ、モウ少シ私ハ考ヘ直サナケレバナラヌノデアルト思ノデアリマス、ダカラサウ云フ心持デ、簡單ニ此ノ外地ノ問題ヲ、唯將來農家ノ收入ガ殖エルノグカラ、今減ツタツオ前等構ハヌデヤナイカト云ツタヤウナ考ヘ方デ、假ニ

○議長(伯爵松平頼義君) 次會ノ議事日程
ハ決定次第臺報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、
本日ハ是ニテ散會致シマス

午後零時三十四分散會

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ
臺灣米穀移出管理特別會計法案ハ、極ステ
重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、此ノ特
別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長
ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長(伯爵松平頼義君) 戸澤子爵ノ動議
ニ御異議ゴザイマセスカ

〔丸龜書記官朗讀〕

臺灣米穀移出管理特別會計法案特別委員
侯爵大隈 信常君 侯爵細川 謹立君
伯爵黒木 三次君 子爵八條 隆正君
子爵松山 康春君 子爵綾小路 謹君
松村眞一郎君 永田秀次郎君
男爵稻田 昌植君 男爵松田 正之君
宮田 光雄君 松村 義一君
丸山 鶴吉君 長岡隆一郎君
松本 真平君 林 平四郎君
小林嘉平治君 風間八左衛門君